

第 2 章

児童・生徒調査

目 次

1. 調査概要	14
(1) 調査設計	14
(2) 回収状況	15
① 全体	15
② 内訳	15
(3) 調査結果の見方	15
2. 単純集計結果	16
(1) 基本属性	16
① 性別	16
② 学年	16
③ 同居家族	17
④ 世帯種別	18
⑤ 健康状態	18
(2) 日常生活について	18
① (ア) 学校への通学状況 (出欠)	18
① (イ) 学校への通学状況 (遅刻や早退)	19
② クラブ活動や部活動・習いごとへの参加状況	19
③ ふだんの学校生活等であてはまること	20
④ (ア) 現在悩んだり困っていたりすること	21
④ (イ) 現在悩んだり困っていたりすること「その他」詳細 (自由回答) ...	22
⑤ 悩みごと等について話を聞いてくれる人の有無 および相談経験の有無	23
(3) 家庭・家族のことについて	23
① お世話をしている家族の有無	23
② (ア) お世話を必要としている家族の続柄	24
② (イ) お世話を必要としている家族の続柄「その他」詳細 (自由回答) ...	25
③ (ア) お世話を必要としている家族の状況	26
③ (イ) お世話を必要としている家族の状況「その他」詳細 (自由回答) ...	27
④ (ア) 行っているお世話の内容	28
④ (イ) 行っているお世話の内容「その他」詳細 (自由回答)	29
⑤ 本人以外に家族のお世話をしている人の有無	30

⑥ (ア) 本人以外に家族のお世話をしている人の属性	30
⑥ (イ) 本人以外に家族のお世話をしている人の属性「その他」詳細 (自由回答)	31
⑦ お世話をはじめた年齢	31
⑧ お世話をしている頻度	31
⑨ (ア) 一日あたりのお世화에費やす時間 (平日)	32
⑨ (イ) 一日あたりのお世화에費やす時間 (平日以外の日)	32
⑩ (ア) お世話をしているためにできていないこと	33
⑩ (イ) お世話をしているためにできていないこと「その他」詳細 (自由回答)	34
⑪ お世話をすることに感じている大変さ	34
⑫ お世話を必要としている家族のことや、お世話の悩みを相談した 経験の有無	35
⑬ (ア) お世話を必要としている家族のことや、お世話の悩みを 相談した相手	36
⑬ (イ) お世話を必要としている家族のことや、お世話の悩みを 相談した相手「その他」詳細 (自由回答)	37
⑭ (ア) 相談していない理由	38
⑭ (イ) 相談していない理由「その他」詳細 (自由回答)	39
⑮ 身近でお世話の悩みを聞いてくれる人の有無	39
⑯ (ア) 学校やまわりの大人に助けてほしいことや必要としている 支援	40
⑯ (イ) 学校やまわりの大人に助けてほしいことや必要としている 支援「その他」詳細 (自由回答)	42
⑯ (ウ) 学校やまわりの大人に助けてほしいことや必要としている 支援「代わってほしいお世話」詳細 (自由回答)	42
⑰ (ア) 話や相談をしたい方法	43
⑰ (イ) 話や相談をしたい方法「その他」詳細 (自由回答)	44
(4) ヤングケアラーについて	45
① ヤングケアラーの自己認識	45
② ヤングケアラーという言葉と内容に対する認知状況	45
③ (ア) ヤングケアラーという言葉を知ったきっかけ (認知経路)	46
③ (イ) ヤングケアラーという言葉を知ったきっかけ (認知経路) 「その他」詳細 (自由回答)	47

3. クロス集計結果	48
(1) 家族のお世話の有無による差	48
① 家族のお世話の有無×健康状態	48
② 家族のお世話の有無×学校への通学状況(出欠)	48
③ 家族のお世話の有無×学校への通学状況(遅刻や早退)	49
④ 家族のお世話の有無×学校生活等であてはまること	50
⑤ 家族のお世話の有無×現在の悩みや困りごと	51
⑥ 家族のお世話の有無×相談相手の有無	52
⑦ 家族のお世話の有無×性別	52
(2) ヤングケアラーの自己認識による差	53
① ヤングケアラーの自己認識×健康状態	53
② ヤングケアラーの自己認識×現在の悩みや困りごと	54
③ ヤングケアラーの自己認識×お世話をすると感じている 大変さ	55
④ ヤングケアラーの自己認識×お世話の有無	56
4. 自由回答	57
(1) カテゴリ分類について	57
(2) 主な回答例	58
① (ア) ヤングケアラーへの支援・施策に関すること—— 認知度・ 理解度の向上	58
① (イ) ヤングケアラーへの支援・施策に関すること—— 相談に かかわる内容	59
① (ウ) ヤングケアラーへの支援・施策に関すること—— 普及啓発	60
① (エ) ヤングケアラーへの支援・施策に関すること—— 人や制度の 支援	60
① (オ) ヤングケアラーへの支援・施策に関すること—— お金の 支援	61
① (カ) ヤングケアラーへの支援・施策に関すること—— 施設・物品 などの支援	61
① (キ) ヤングケアラーへの支援・施策に関すること—— 気づき・ 声掛け	62
① (ク) ヤングケアラーへの支援・施策に関すること—— その他	63

② 感想・意見・要望	64
③ アンケートの感想	64
④ お世話をしている子どもの声	65
⑤ 相談・悩み・強い意見	66
⑥ 市や学校への設備や制度への要望	67
 5. まとめ	 68
(1) 家族のお世話をしている児童・生徒の把握	68
(2) 学年層ごとの家族のお世話の状況	68
(3) 家族のお世話をすることによる影響	69
(4) 相談相手の状況と支援ニーズ	69
(5) ヤングケアラーの自己認識と認知度	69

1. 調査概要

(1) 調査設計

目的	本調査では、市内の児童・生徒を対象としたアンケート調査を実施し、学校や家庭生活の中での悩みや困りごと等の生活実態を明らかにするとともに、ヤングケアラーに関する支援施策等の検討を行うための基礎資料とする。
調査対象者	① 小学生・中学生向け調査 市立小学校・中学校の小学5年生から中学3年生のすべての児童・生徒 10,449人 小学生：4,437人 中学生：6,012人 ② 高校生世代向け調査 市内に在住するすべての高校生世代（平成17年4月2日～平成20年4月1日生まれ）6,952人
調査方法	① 小学生・中学生向け調査 各学校を通じて児童・生徒向け、保護者向けの調査依頼文を配布し、児童・生徒本人が学校配布のタブレットからWebアンケートフォームにアクセスし回答。 ② 高校生世代向け調査 住民基本台帳から抽出した対象者に郵便で調査依頼文を送付し、高校生世代本人が個人の端末からWebアンケートフォームにアクセスし回答。筆記で回答を希望する対象者のために別途紙媒体を準備。
調査期間	① 小学生・中学生向け調査 令和5年7月18日（火）～9月1日（金） ② 高校生世代向け調査 令和5年8月23日（水）～9月30日（土）
調査項目	国が令和2・3年度に実施したヤングケアラー関連調査の調査項目を基本に、実態調査委員会において本市独自項目の追加等を行い、小学生・中学生用調査票（32問）、高校生世代向け調査票（32問）を作成。なおいずれの調査票においても読み仮名あり・なしのフォーム2種を作成した。
調査実施にあたっての留意事項	本調査は児童・生徒に家族や家庭内の様子についてたずねるものであることから、アンケート依頼文およびアンケート説明動画内で、アンケートへの協力が任意であること、答えたくない設問には答えなくてよいことを伝えた。説明動画では調査の目的や注意点、活用方法を伝え、調査への安心感を持てるよう、またアンケートに対するの共通認識を持ったうえで回答できるよう留意した。

(2) 回収状況

①全体

児童・生徒調査の回収総数は7,860。うち、有効回答数は7,854（45.1％）。

②内訳

調査対象	配布総数 ^{※1}	回収総数 ^{※2}	有効票 ^{※3}		無効票 ^{※4}
			票数	割合	
小学生	4,437	3,182	3,180	71.7%	2
中学生	6,012	3,966	3,962	65.9%	4
高校生世代	6,952	712	712	10.2%	0
合計	17,401	7,860	7,854	45.1%	6

※1 配布総数：小学生・中学生は各学校在籍者数（令和5年5月現在）、高校生世代は実際に郵送可能であった件数（令和5年8月現在）

※2 回収総数：ウェブ回答および紙調査票の回収総数

※3 有効票：回収総数から無効票を除いたもの

※4 無効票（無効回答）：ウェブはログインのみ、未入力で送信されたもの、およびログイン後属性全未回答のもの。紙は白票

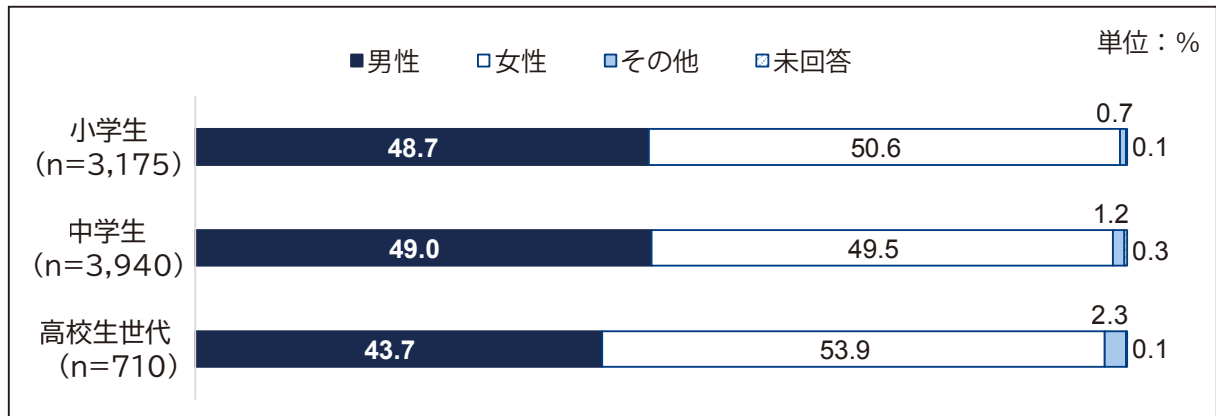
(3) 調査結果の見方

- 回答結果の割合（％）は有効サンプル数に対し各回答数の割合を小数点第2位で四捨五入しているため、単数回答（複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ）であっても合計が100％にならない場合がある。
- 複数回答（2つ以上の選択肢を選択できる質問）の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対しそれぞれの割合を示しているため、合計が100％を超える場合がある。
- 図表内の「n＝」はその設問についての集計対象件数を示している。母集団のデータの数を示す場合は「N＝」と表記する。
- 集計サンプル数が少ない属性項目については1サンプルあたりの重みが大きく比率が変動しやすいため、結果の利用には注意を要する。
- 調査フォーム・調査票上で【学年】について「その他」と回答した、または「無回答」であったケース（計29件）については学年を確定できないため単純集計・クロス集計における分析対象からは除外した。
- 自由記述による回答の集計・分析にあたっては、個人の特定につながる情報（人名、固有名詞等）をすべて削除したうえで図表の作成および回答例の掲載を行っている。
- 「お世話」とは本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話などをすることを示す。
- 「お世話をしている家族が『いる』」と回答した児童・生徒が必ずしもヤングケアラーに該当するとは限らない。

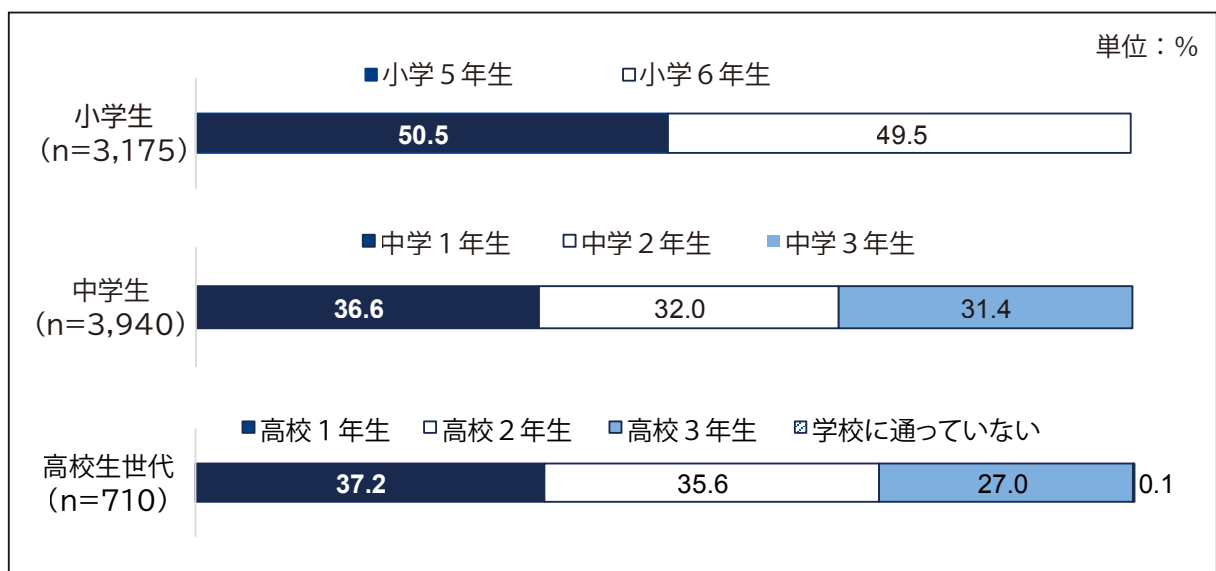
2. 単純集計結果

(1) 基本属性

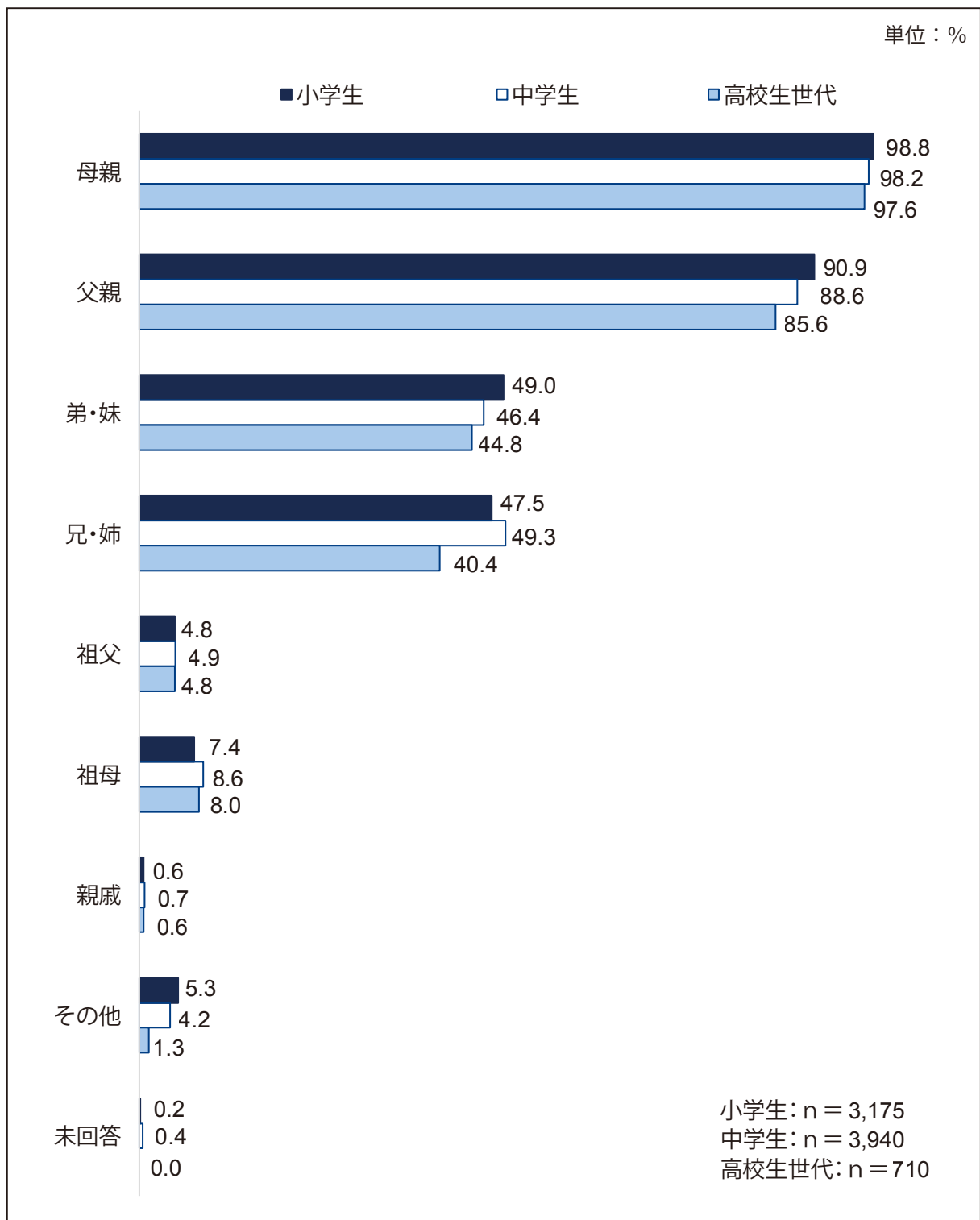
①性別（問1）



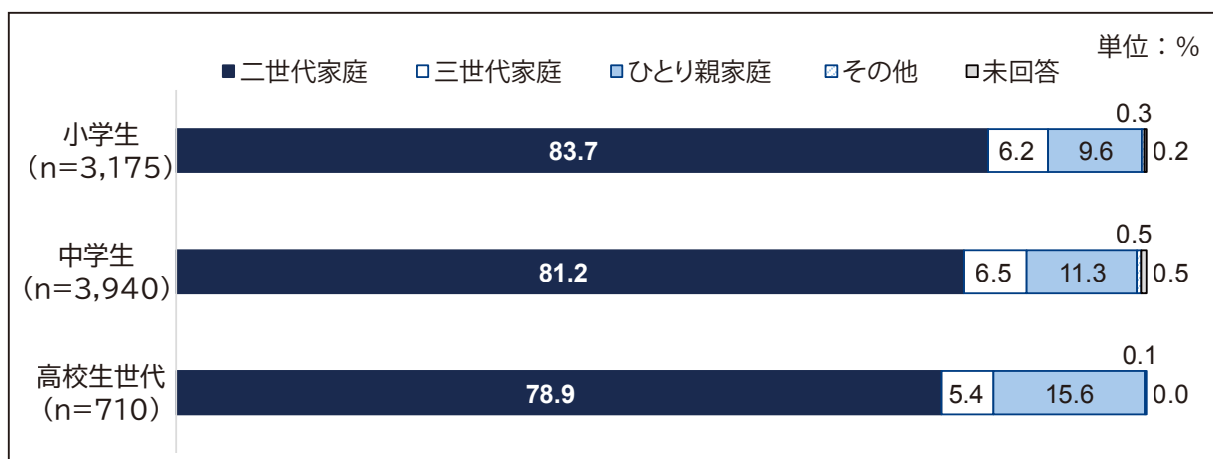
②学年（問2）



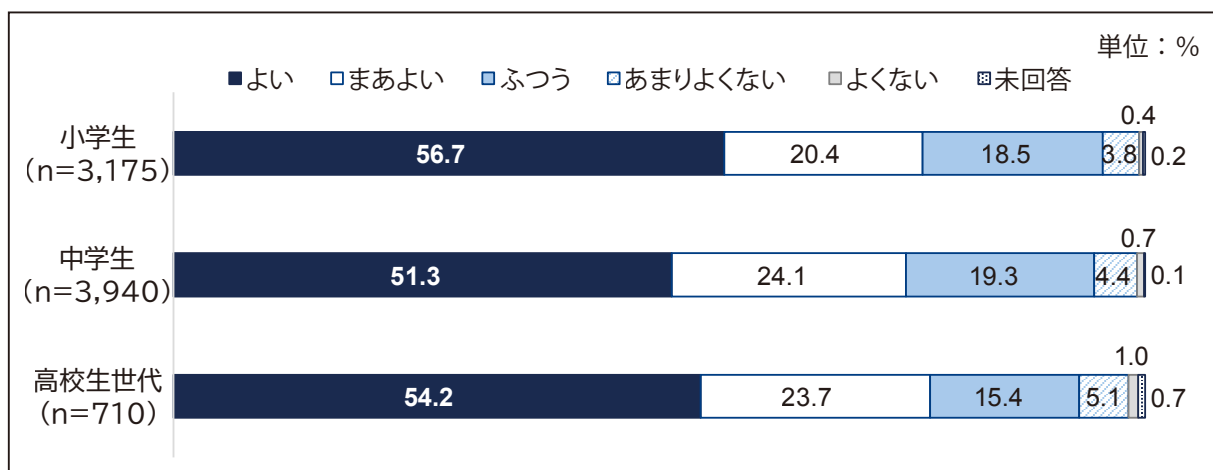
③同居家族（問3）



④世帯種別（問3）



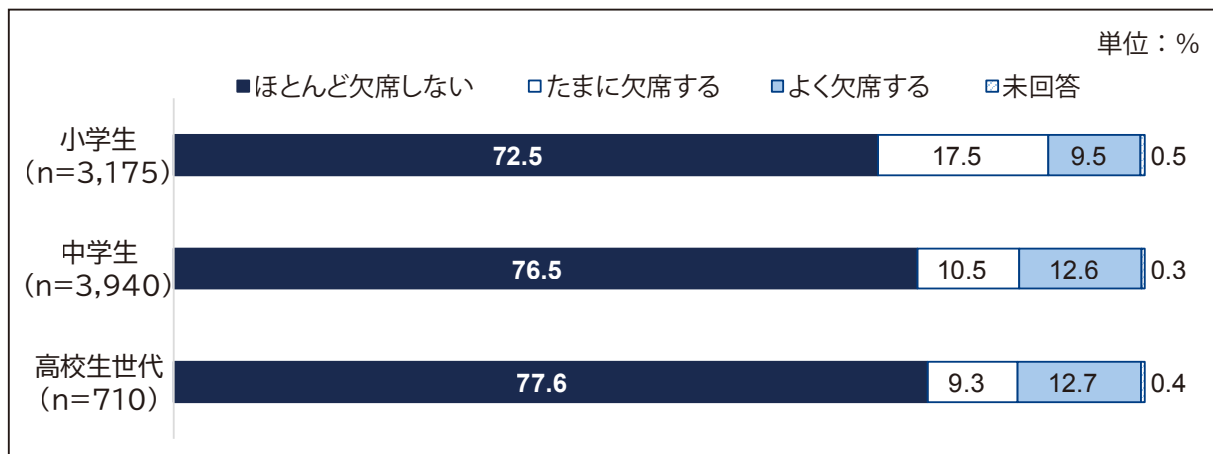
⑤健康状態（問4）



(2) 日常生活について

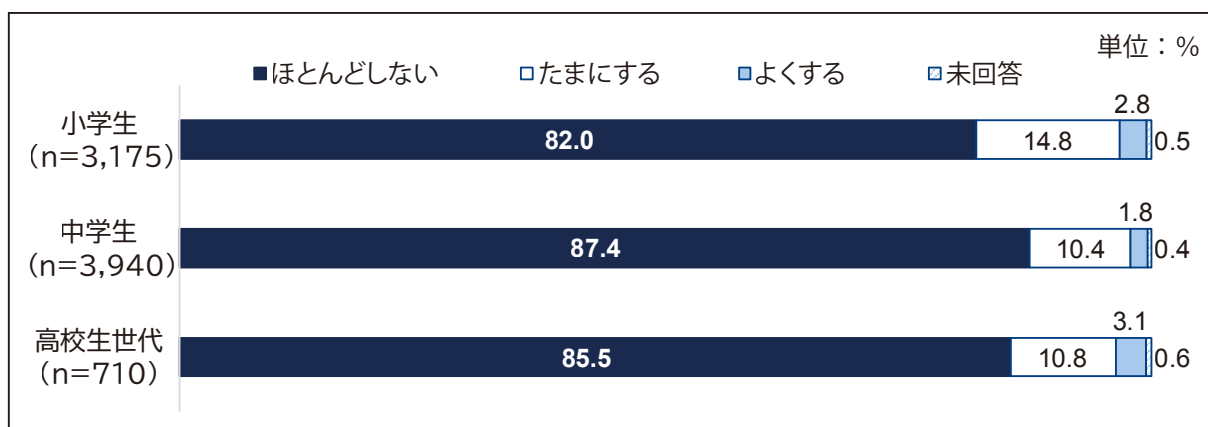
①（ア）学校への通学状況（出欠）（問5）

学校への通学状況（出欠）については、小学生（72.5%）・中学生（76.5%）・高校生世代（77.6%）とも「ほとんど欠席しない」が最も高くなっている。続いて小学生では「たまに欠席する」（17.5%）、「よく欠席する」（9.5%）の順に高いが、中学生と高校生世代では「よく欠席する」「たまに欠席する」の順となっている。



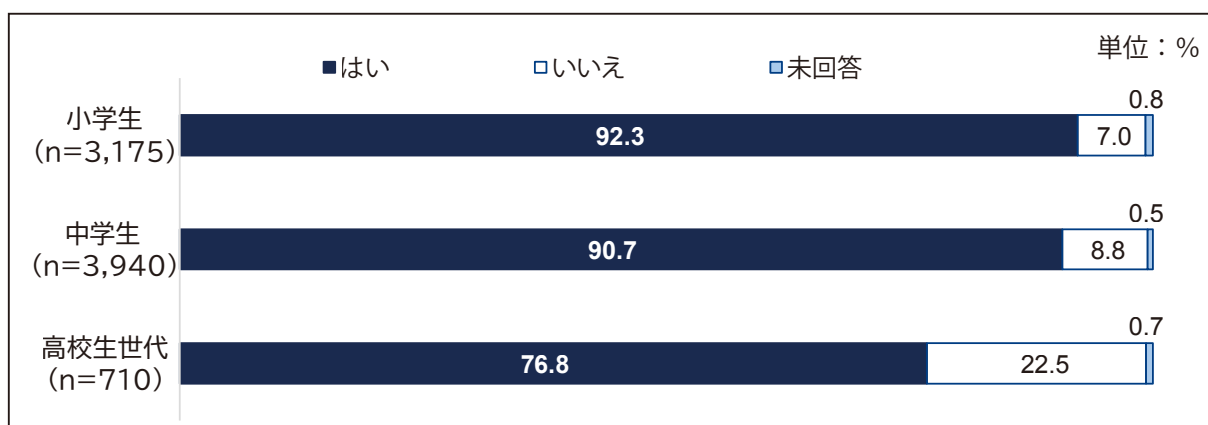
① (イ) 学校への通学状況 (遅刻や早退) (問 6)

学校への通学状況 (遅刻や早退) は、小学生 (82.0%)・中学生 (87.4%)・高校生世代 (85.5%) とも「ほとんどしない」が最も高くなっている。小学生では「たまにする」(14.8%) が中学生・高校生世代と比べ4ポイント以上高くなっている。



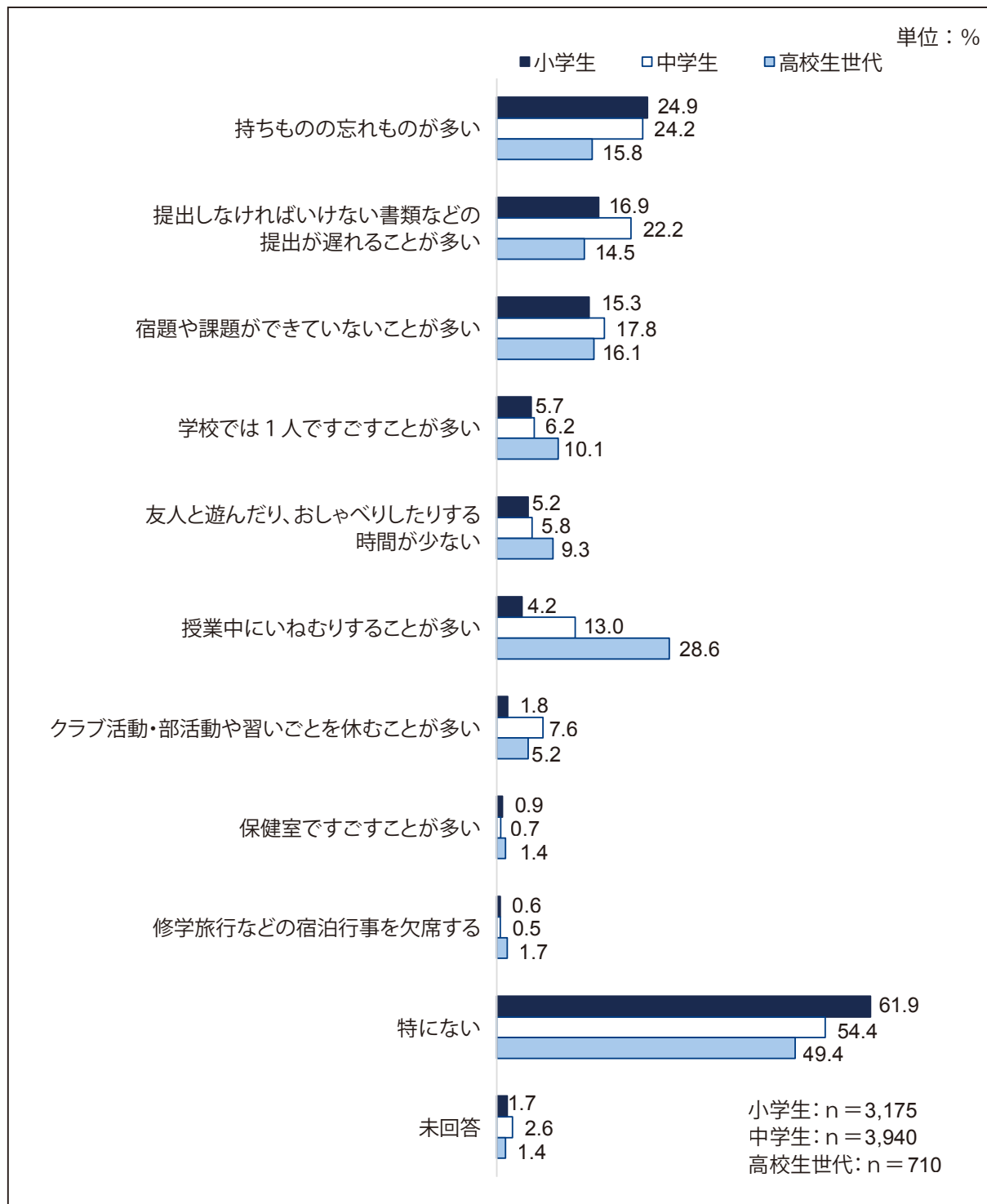
② クラブ活動や部活動・習いごとへの参加状況 (問 7)

クラブ活動や部活動・習いごとへの参加状況は、小学生 (92.3%)・中学生 (90.7%)・高校生世代 (76.8%) とも「はい」が最も高くなっている。なお高校生世代では小中学生に比べ「はい」が10ポイント以上低く、「いいえ」(22.5%) が小中学生に比べ10ポイント以上高くなっている。



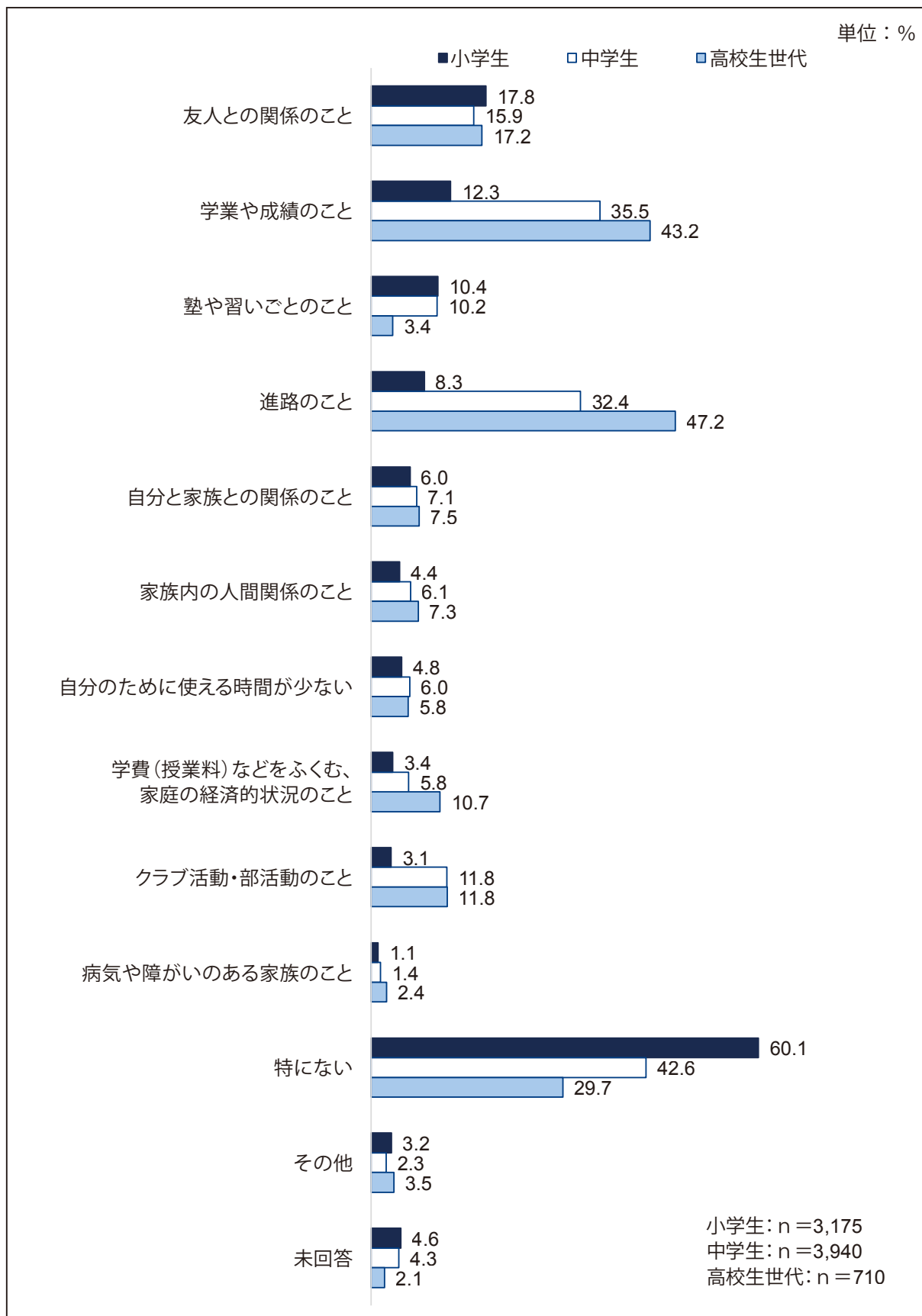
③ふだんの学校生活等であてはまること（問8）

ふだんの学校生活等であてはまることは、小学生（61.9%）・中学生（54.4%）・高校生世代（49.4%）とも「特にない」が最も高い。続いて小中学生では「持ち物の忘れものが多い」（24.9%、24.2%）、「提出しなければいけない書類などの提出が遅れることが多い」（16.9%、22.2%）、「宿題や課題ができていないことが多い」（15.3%、17.8%）となっている。高校生世代では「授業中にいねむりすることが多い」（28.6%）、「宿題や課題ができていないことが多い」（16.1%）、「持ち物の忘れ物が多い」（15.8%）の順となっている。



④（ア）現在悩んだり困っていたりすること（問9）

現在悩んだり困っていたりすることは、小中学生では「特にない」が最も高くなっている（60.1%、42.6%）が、高校生世代では「進路のこと」（47.2%）が最も高くなっている。次いで小学生では「友人との関係のこと」（17.8%）が続くが、中学生・高校生世代では「学業や成績のこと」（35.5%、43.2%）、続いて中学生は「進路のこと」（32.4%）が高くなっている。



④ (イ) 現在悩んだり困っていたりすること「その他」詳細 (自由回答) (問9)

現在悩んだり困っていたりすることについて「その他」を選択した対象者から 218 件の自由回答 (小学生 101 件、中学生 92 件、高校生世代 25 件) が得られ、その内容を検討し、以下の通りカテゴリ分類を行った。

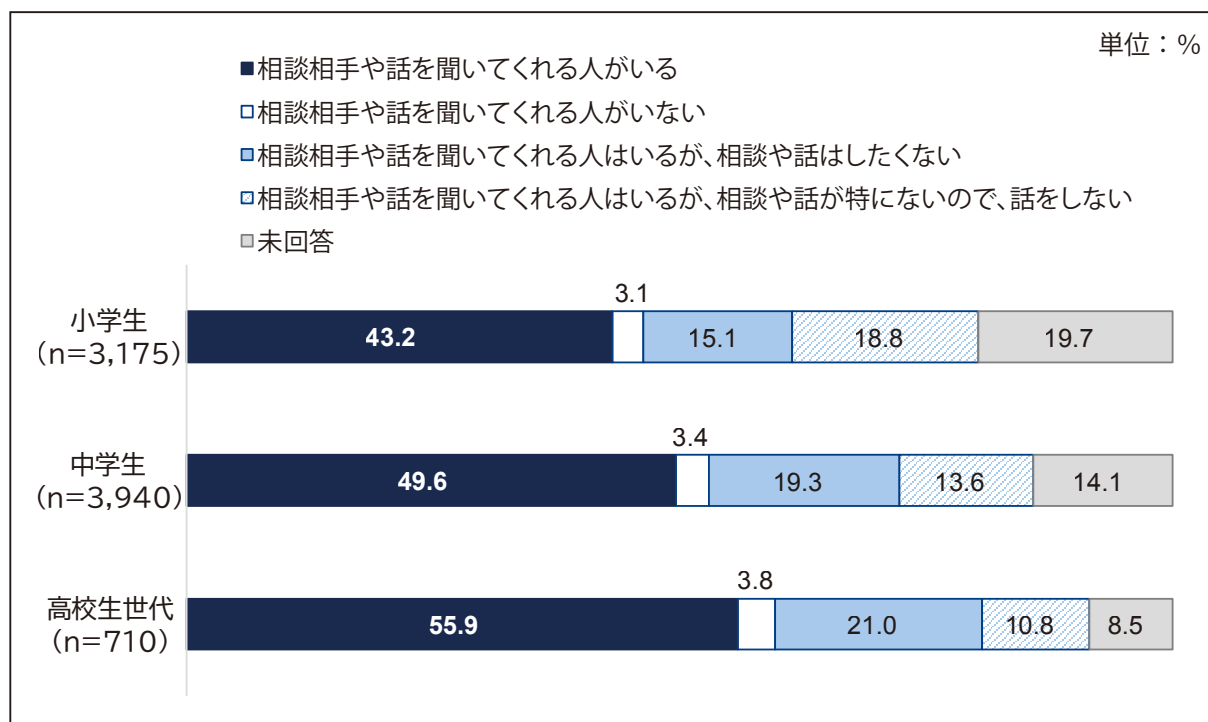
最も件数が多かったカテゴリは「自分の体調、心身の状況」(49 件)、次に「自分のこと (性格、容姿、存在意義等)」(27 件) であった。続いて「先生のこと」(13 件)、「学習に関すること」「その他学校でのこと」が同数で 12 件ずつあった。また「いじめ、嫌がらせ」「対人関係 (いじめや嫌がらせ以外で、家族や学校等の状況が不明のもの)」が同数で 10 件ずつあった。

カテゴリ名	回答件数
自分の体調、心身の状況 (病気やケガの名称、「自分の病気」「精神状態」「ストレス」「睡眠不足」等)	49
自分のこと (性格、容姿、存在意義等) ※性別、ジェンダー・セクシャリティを除く	27
先生のこと (「担任の先生のこと」「保健室の先生が怖い」等)	13
学習に関すること (学校・塾の課題や宿題、受験・進学に関すること)	12
その他学校でのこと (生徒会、文化祭、委員会活動等のほか「学校が楽しくない」「やることが多い」等 ※学習、先生、クラスメイト、いじめに関することを除く)	12
いじめ、嫌がらせ	10
対人関係 ※いじめや嫌がらせを除く・学校や家庭等の状況が不明のもの	10
親のこと (親との関係、親の状況)	9
クラスメイト (「クラスメイトとの人間関係」「授業中うるさい」等)	7
家族・親戚との関係や状況	6
友人のこと (「友達作り」「友達との距離感」等)	6
習いごとや趣味に関すること	7
恋愛 (「恋の悩み」「好きな人のこと」等)	7
家でのこと (家庭環境、部屋のことなど)	5
自分のジェンダー・セクシャリティ (「自分の心の性別」「自分の性について」等)	5
ゲームのこと	4
お金のこと (「お金がない」「小遣いが足りない」等)	4
将来のこと (「将来の夢」「将来に対する不安」等)	4
スマホ、SNS (「スマホを買ってくれない」「使用の制限が多い」等)	3
家族の健康 (病気、障がい)	2
時間が足りない	3
自分の障がいと周囲との関係	2
その他	12
ない (ない、なし、どれも当てはまらない)	4
判別不能	1

※複数カテゴリに分類される自由回答があるため、各カテゴリの件数を加算した数値は自由回答の件数より多くなることがある。

⑤悩みごと等について話を聞いてくれる人の有無および相談経験の有無（問 10）

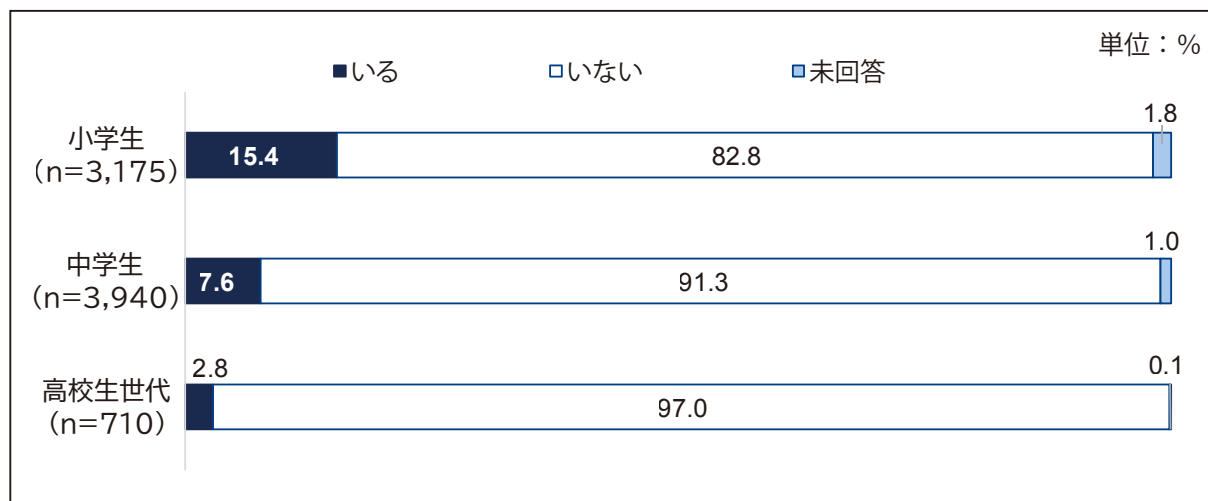
悩みごと等について話を聞いてくれる人の有無および相談経験の有無は、小学生（43.2%）・中学生（49.6%）・高校生世代（55.9%）すべてで「相談相手や話を聞いてくれる人がいる」が最も高い。続いて小学生では「相談相手や話を聞いてくれる人はいるが、相談や話が特にないので、話をしない」（18.8%）、「相談相手や話を聞いてくれる人はいるが、相談や話はしたくない」（15.1%）の順、中学生・高校生世代では「相談相手や話を聞いてくれる人はいるが、相談や話はしたくない」（中学生 19.3%、高校生世代 21.0%）、「相談相手や話を聞いてくれる人はいるが、相談や話が特にないので、話をしない」（中学生 13.6%、高校生世代 10.8%）の順となっている。



（3）家庭・家族のことについて

①お世話をしている家族の有無（問 11）

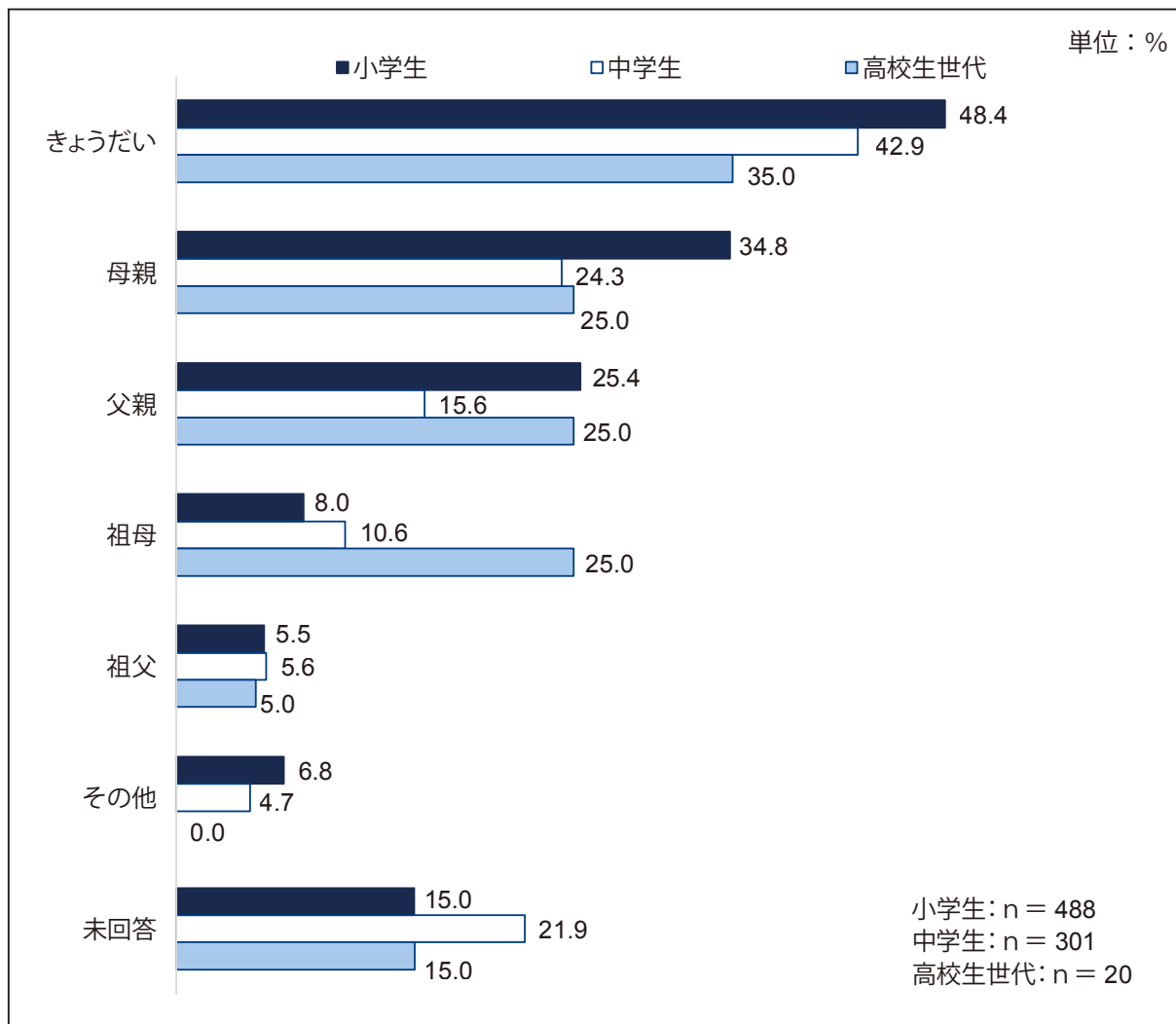
お世話をしている家族の有無は、「いる」が小学生 15.4%、中学生 7.6%、高校生世代 2.8%となっている。



② (ア) お世話を必要としている家族の続柄 (問 12)

お世話を必要としている家族の続柄は、すべての学年で「きょうだい」が最も多く回答されている(小学生 48.4%・中学生 42.9%・高校生世代 35.0%)。また「きょうだい」を回答する比率は学年が上であるほど低くなっている。

次に多く回答されたのはすべての学年で「母親」(小学生 34.8%、中学生 24.3%、高校生世代 25.0%)である。また小中学生では「父親」が三番目に高いが(小学生 25.4%、中学生 15.6%)、高校生世代では「父親」と「祖母」も「母親」と同率の 25.0%となっている。また「祖母」のみ学年が上であるほど比率が高くなっている。



② (イ) お世話を必要としている家族の続柄「その他」詳細 (自由回答) (問 12)

お世話を必要としている家族の続柄について「その他」と回答した対象者から 47 件の自由回答 (小学生 33 件、中学生 14 件) があり、その内容を検討し、以下の通りカテゴリ分類を行った。

最も件数が多かったカテゴリは「いない」(合計 24 件)、次に「ない」(5 件) であった。また類似したカテゴリとして「当てはまらない」(2 件)、「していない」(1 件) があった。この「いない」「ない」「当てはまらない」という回答については、お世話を必要としている家族の続柄 (② (ア)、問 12) の中に選択できるものがなかったか、家庭内でなんらかの手伝い等をしているかもしれないが、特定の家族メンバーの世話はしていないという可能性が考えられる。一方「していない」については① (問 11) ではお世話をしている家族が「いる」と回答したが、実際には家族のお世話をしていない、またはなんらかの手伝い等をしているかもしれないが、特定の家族メンバーの世話はしていないという可能性が考えられる。

お世話の対象としての属性が回答されているものは「いところ」「姪」などの「選択肢にない家族の続柄」(4 件)、また「自分」(4 件) や「家族以外の人」(1 件) を挙げているものがあるほか、「わからない」(1 件) があった。

またなんらかの属性以外を回答したものとしては「自分で家事を進んで行っている」等があった。

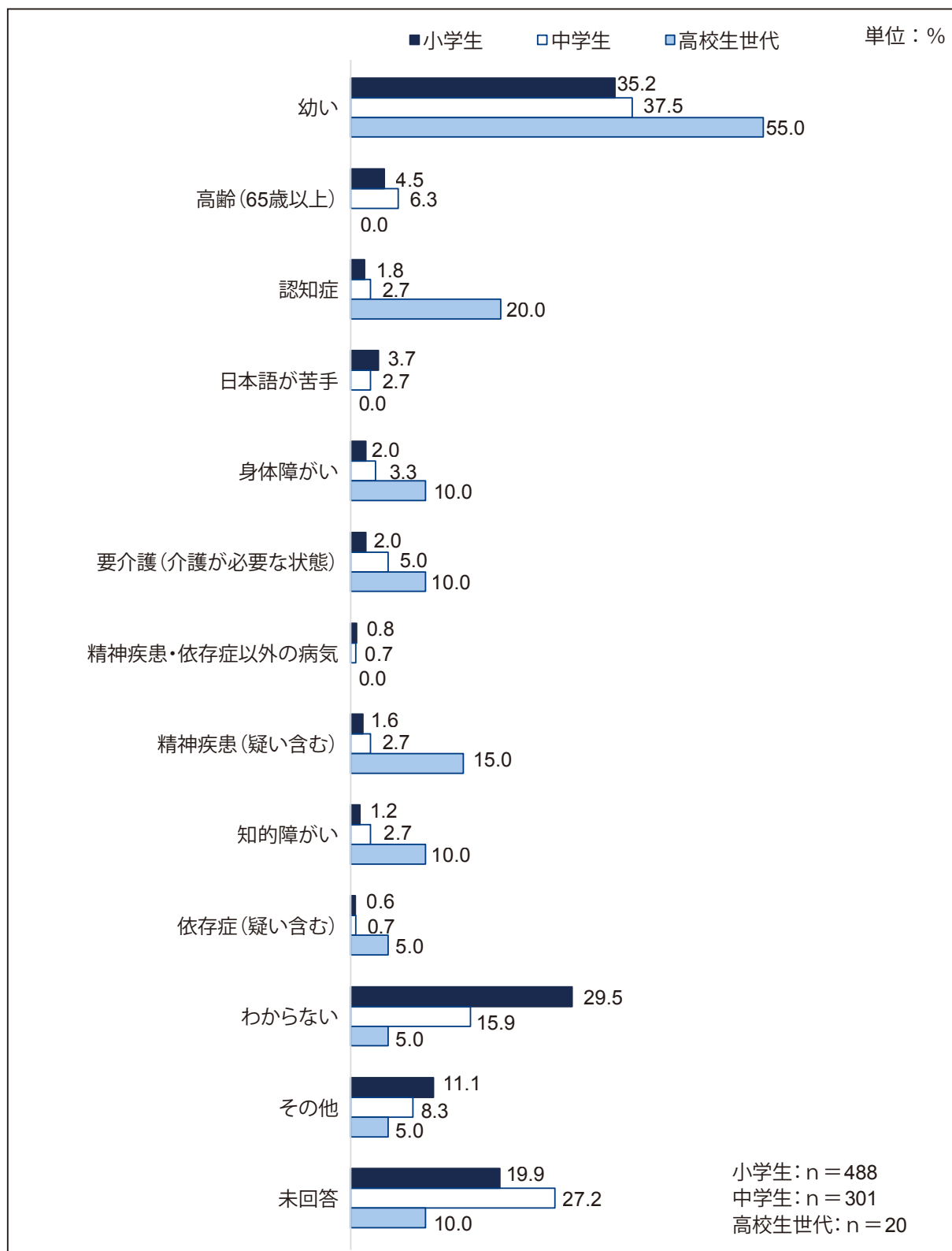
カテゴリ名	回答件数
いない	24
ない	5
選択肢にない家族の属性 (「いところ」「姪」等)	4
自分	4
属性以外のコメント	3
当てはまらない	2
していない	1
家族以外の人	1
わからない	1
判別不能	2

※複数カテゴリに分類される自由回答があるため、各カテゴリの件数を加算した数値は自由回答の件数より多くなることがある。

③ (ア) お世話を必要としている家族の状況 (問 13)

お世話を必要としている家族の状況は、小学生 (35.2%)・中学生 (37.5%)・高校生世代 (55.0%) すべてで「若い」が最も多い。次に小学生 (29.5%) と中学生 (15.9%) では「わからない」が多く、高校生世代では「認知症」(20.0%)、「精神疾患 (疑い含む)」(15.0%) の順に多い。また小学生と中学生では3番目に「その他」が多い。

また「認知症」「身体障がい」「要介護 (介護が必要な状態)」「精神疾患 (疑い含む)」「知的障がい」、アルコール依存症・ギャンブル依存症などの「依存症 (疑い含む)」については、学年が上であるほど比率が高くなっている。



③ (イ) お世話を必要としている家族の状況「その他」詳細 (自由回答) (問 13)

お世話を必要としている家族の状況について「その他」を選択した対象者から 80 件 (小学生 54 件、中学生 25 件、高校生世代 1 件) の自由回答が得られ、その内容を検討し、以下の通りカテゴリ分類を行った。

分類された回答件数が最も多かったカテゴリは「ない」(17 件) であるが、類似したカテゴリとして「当てはまらない」が 2 件、「していない」が 1 件あった。「ない」および「当てはまらない」という回答に関しては、“お世話を必要としている家族の状況をたずねた設問 (③ (ア)、問 13) における選択肢の中に当てはまるものがなかった”ことが考えられる。一方「していない」という回答に関しては、① (問 11) ではお世話をしている家族が「いる」と回答したが、実際には家族のお世話をしていない、または家庭内でなんらかの手伝い等をしているかもしれないが、特定の家族メンバーのお世話はしていないという可能性が考えられる。

次に回答件数が多かったカテゴリは「具体的な疾患や障がいなどの名称」(11 件) である。これに類似したカテゴリとして「病気 (具体的名称なし)」が 6 件あった。続いて、世話を必要としている家族の状況として「年齢が幼いきょうだいの状況」(7 件)、「その他世話の必要な家族の状況」(9 件) があった。

また直接お世話を必要としている家族の状況ではないが、家族のお世話が必要となる背景についての回答として「親の状況」(9 件) があった。さらにお世話の必要な相手の状況ではなく「お世話の内容」を挙げた回答が 4 件あった。またお世話の必要な相手の状況としてペットなど「動物」を挙げた回答が 3 件あった。

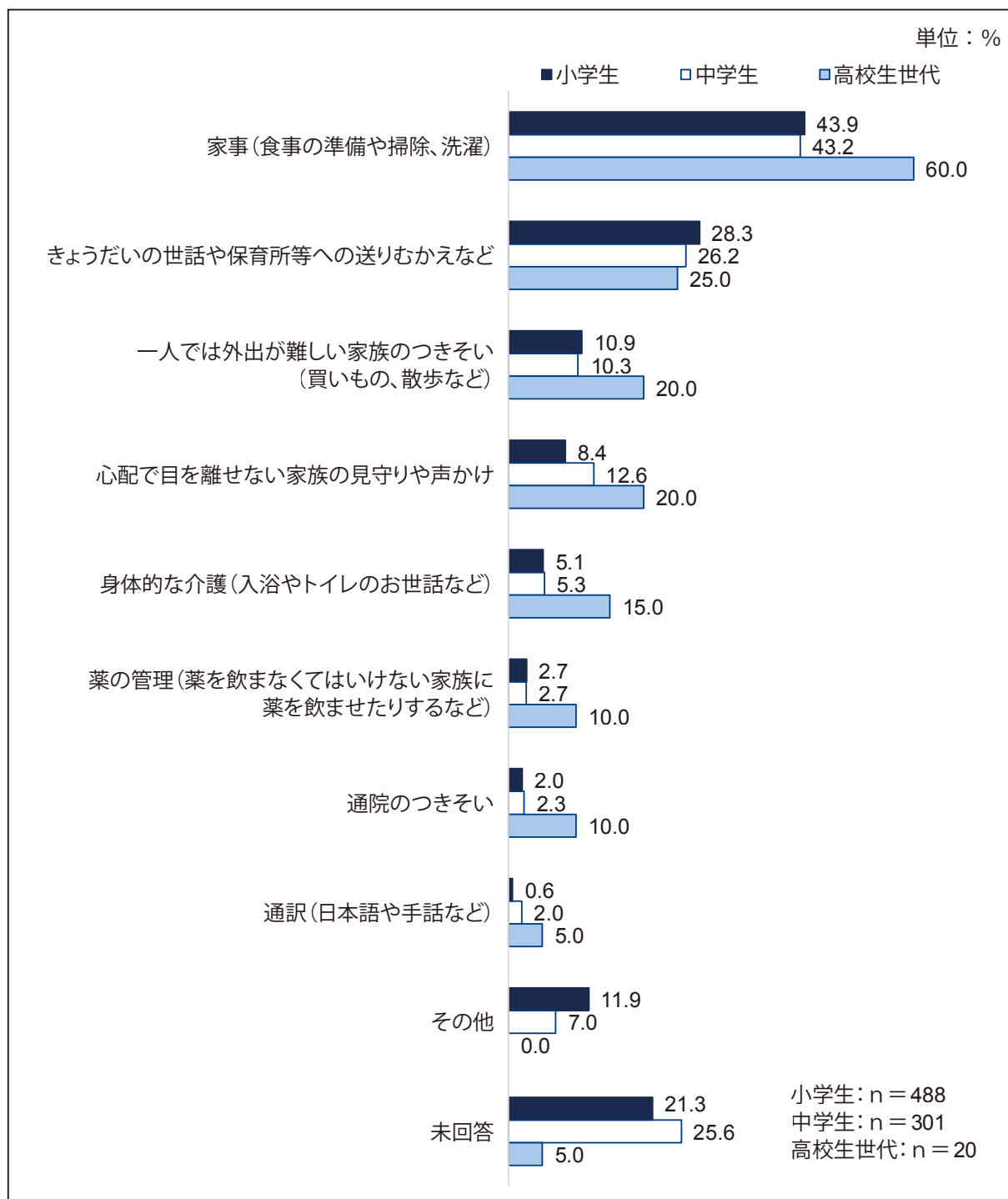
カテゴリ名	回答件数
ない (「特にない」「なし」「なにもない」等)	17
具体的な疾患、障がい等の名称	11
親の状況 (「仕事が忙しい」等)	9
その他世話の必要な相手の状況	9
いない (「いない」「誰もいない」等)	9
年齢が幼いきょうだいの状況	7
病気 (具体的名称なし)	6
お世話の内容 (「料理」「洗濯物たたみ」等の家事または「家事の手伝い」等)	4
人間以外 (「犬」等)	3
当てはまらない	2
普通 (「普通に元気」等)	2
していない	1
家族以外の人のこと	1

※複数カテゴリに分類される自由回答があるため、各カテゴリの件数を加算した数値は自由回答の件数より多くなることがある。

④ (ア) 行っているお世話の内容 (問 14)

行っているお世話の内容では「家事(食事の準備や掃除、洗濯)」が最も多く、小学生 43.9%・中学生 43.2%・高校生世代 60.0%となっている。次に「きょうだいの世話や保育所等への送りむかえなど」(小学生 28.3%・中学生 26.2%、高校生世代 25.0%)が多い。また小中学生では「家事」および「きょうだいの世話等」を除いた他のお世話については回答される割合が1～10%台だが、高校生世代では「一人では外出が難しい家族のつきそい(買い物、散歩など)」「心配で目を離せない家族の見守りや声かけ」が20.0%となっている。

また身体的な介護については小中学生では5%台のところ、高校生世代では15.0%となっている。高校生世代は(サンプル数が少ないためデータの利用には注意を要するが)小中学生と比較して(「その他」と「未回答」を除き)選択しているお世話の種類が多い。



④ (イ) 行っているお世話の内容「その他」詳細 (自由回答) (問 14)

家族へのお世話の内容について、「その他」を選択した対象者から 79 件 (小学生 58 件、中学生 21 件、高校生世代 0 件) の自由記述回答が得られ、以下の通りカテゴリ分類を行った。

最も回答が多かったカテゴリは「ない・当てはまらない」25 件であった。これについては④ (ア) (問 14) の選択肢中に対象者がしているお世話がなかった可能性が考えられる。また「していない・いない」が 11 件あるが、これについては① (問 11) でお世話をしている家族が「いる」と回答したものの実際には家族のお世話をしていないか、家庭内で何らかの手伝い等をしているかもしれないが、④ (ア) (問 14) の選択肢にあるようなことはしていないという可能性が考えられる。

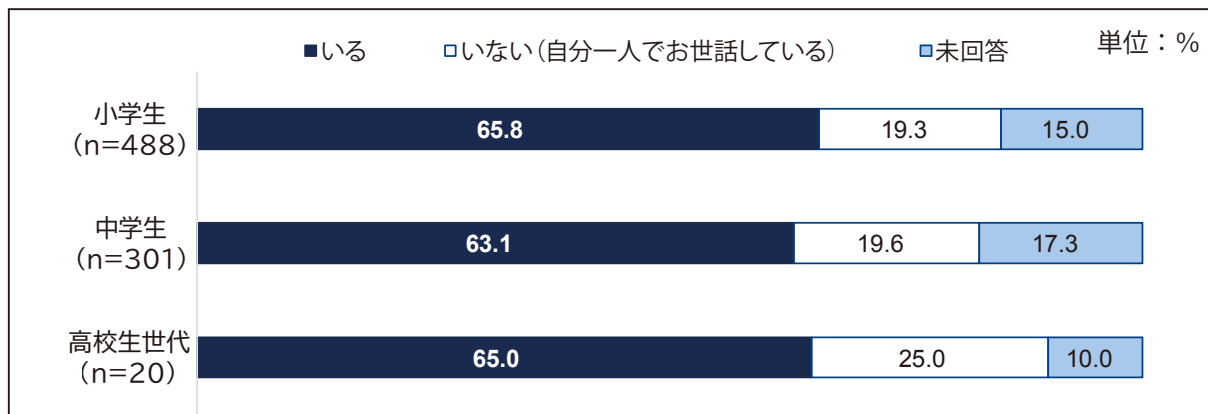
具体的なお世話の内容に関するものでは「遊び相手」(17 件) が最多であった。これには遊び相手をするほか、一緒に遊ぶことも含まれている。次いで「家事」(8 件)、「幼いきょうだいの世話」(4 件) があった。家事や幼いきょうだいの世話は④ (ア) (問 14) の選択肢にあるが、この「その他」を選択したうえでの回答では、その具体的な内容についての記述がなされていた。他に具体的なお世話の内容についての回答は「付き添い、見守り」(4 件)、「勉強を教える」(2 件)、「育児」(1 件)、「(幼いきょうだい以外の) 介助」(1 件) があった。また「ペットの世話」(3 件) があった。

カテゴリ名	回答件数
ない (「ない」「特にない」「なし」「当てはまらない」等)	25
遊び相手 (「一緒に遊んであげる」等)	17
していない (「お世話していない」「しない」「いない」等)	11
家事 (「風呂の掃除」「洗濯物たたみ」等)	8
幼いきょうだいの世話 (「風呂に入れる」「着替え」等)	4
付き添い、見守り	4
相手に何かをしてあげる (「物を取ってあげる」等)	3
ペットの世話 (「犬」「猫」「カブトムシ」等)	3
勉強 (「勉強」「勉強を教える」等)	2
育児	1
(幼いきょうだい以外の) 介助	1
わからない	1
判別不能	3

※複数カテゴリに分類される自由回答があるため、各カテゴリの件数を加算した数値は自由回答の件数より多くなることもある。

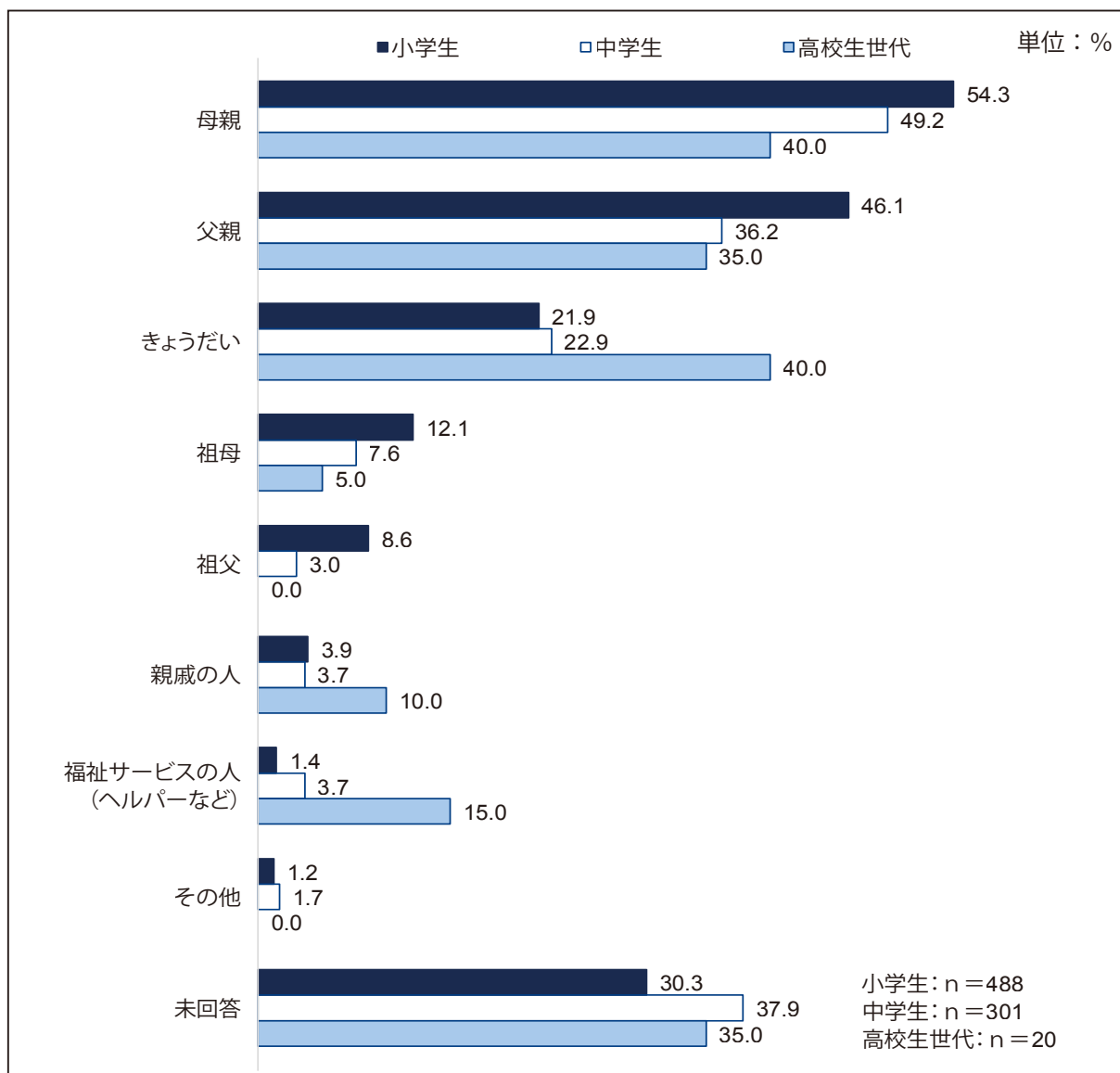
⑤本人以外に家族のお世話をしている人の有無（問 15）

本人以外に家族のお世話をしている人の有無は「いる」が小学生・中学生・高校生世代とも 60%を超えているが、高校生世代は「いない」(25.0%)の比率が小中学生より 5 ポイント以上高くなっている。



⑥（ア）本人以外に家族のお世話をしている人の属性（問 16）

本人以外に家族のお世話をしている人の属性は小学生 (54.3%)・中学生 (49.2%)・高校生世代 (40.0%) とも「母親」が最も多い。続いて小中学生では「父親」「きょうだい」の順だが、高校生世代では「きょうだい」「父親」の順となっている。



⑥ (イ) 本人以外に家族のお世話をしている人の属性「その他」詳細 (自由回答) (問 16)

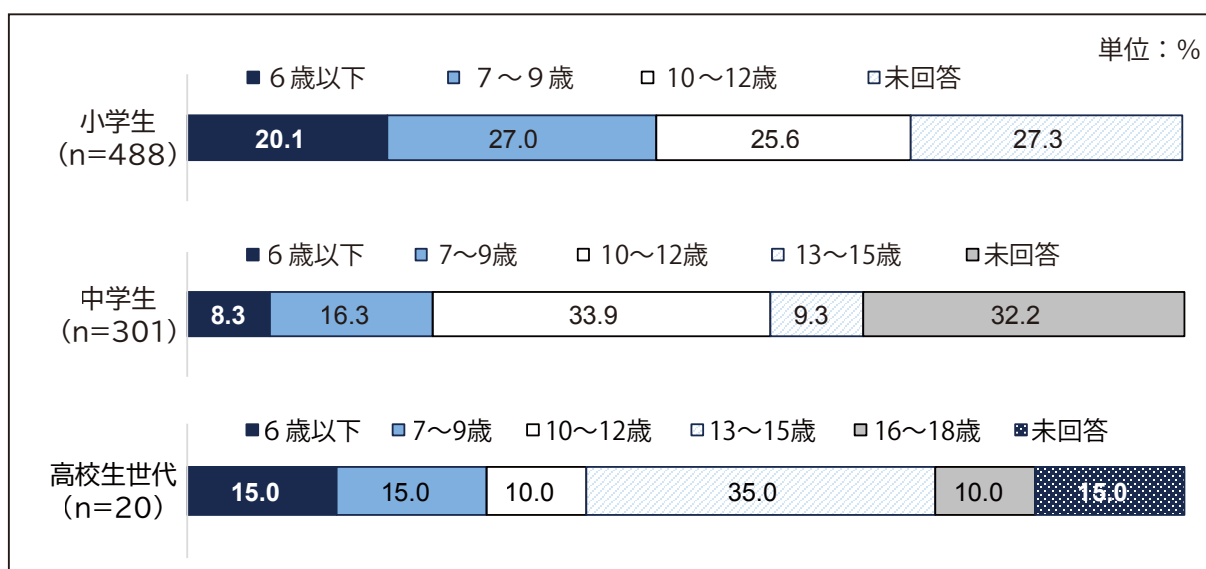
本人以外に家族のお世話をしている人の属性について「その他」を選択した対象者から自由回答 11 件 (小学生 6 件、中学生 5 件、高校生世代 0 件) が得られ、内容を検討しカテゴリ分類を行った。

最も回答が多かったカテゴリは「いない」の 4 件であるが、これについては本人以外に家族のお世話をしている人の有無 (⑤、問 15) において「いる」と回答したものの実際にはいないか、本人以外に家族のお世話をしている人の属性をたずねた設問 (⑥ (ア)、問 15) の選択肢中に該当する属性がなかった可能性が考えられる。

次に回答が多かったカテゴリとしては「犬」の 3 件、「特定の人物」の 3 件 (名前、立場などを挙げたもの) があつた。

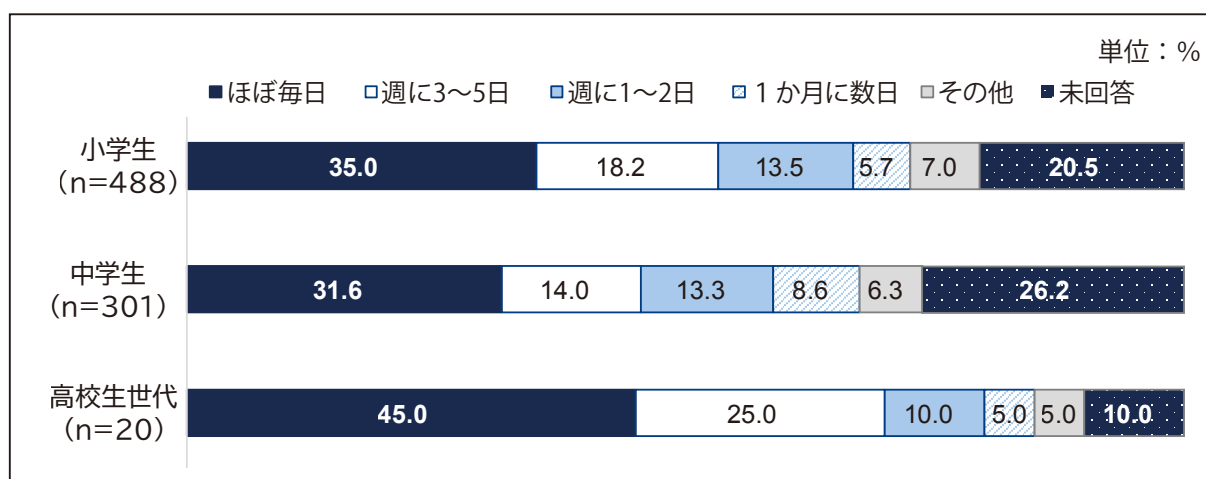
⑦ お世話をはじめた年齢 (問 17)

お世話をはじめた年齢についての回答は、小学生では「7～9 歳」が最も多く、次に「10～12 歳」となっている。中学生では「10～12 歳」が最も多く、次に「7～9 歳」となっている。高校生世代では「13～15 歳」が最も多く、次に「7～9 歳」となっている。



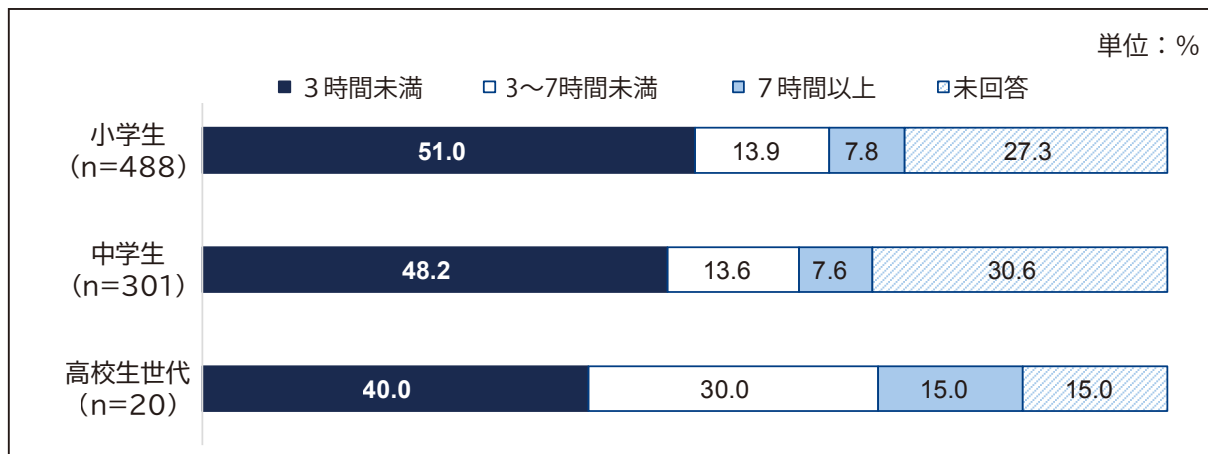
⑧ お世話をしている頻度 (問 18)

お世話をしている頻度は、小学生 (35.0%)・中学生 (31.6%)・高校生世代 (45.0%) すべてで「ほぼ毎日」が最も多く、続いて「週に 3～5 日」「週に 1～2 日」の順に多い。ただし高校生世代では「週に 3～5 日」が小中学生と比べ 6～11 ポイント高い。



⑨ (ア) 一日あたりのお世話に費やす時間（平日）（問 19）

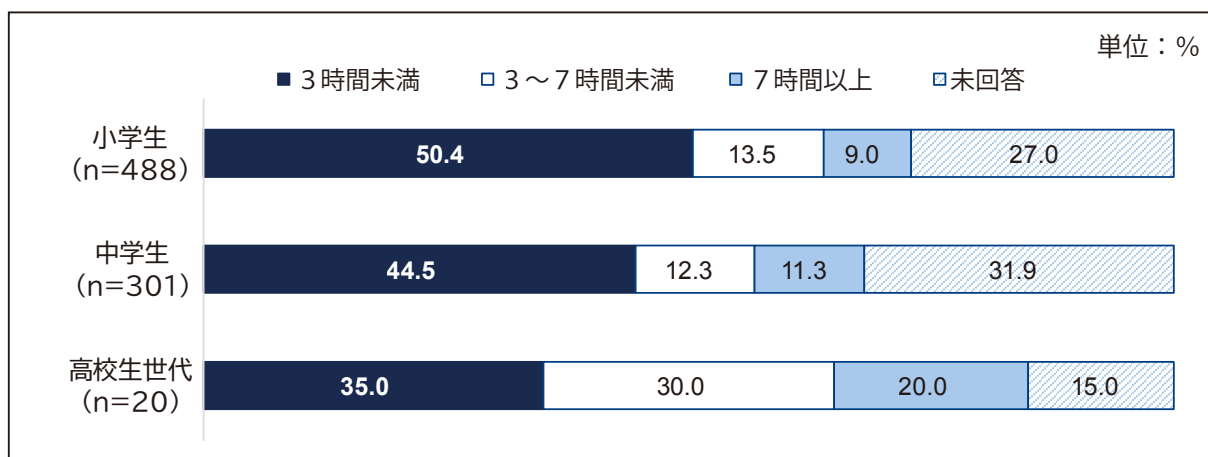
平日一日あたりのお世話に費やす時間は、小学生（51.0%）・中学生（48.2%）・高校生世代（40.0%）すべてで「3 時間未満」が最も多く、次に「3～7 時間未満」となっている。高校生世代では「3～7 時間未満」が 30.0%と、小中学生と比べ 16 ポイント以上高い。また「7 時間以上」は小中学生では 8%弱だが、高校生世代では 15.0% と 7 ポイント以上高い。



⑨ (イ) 一日あたりのお世話に費やす時間（平日以外の日）（問 20）

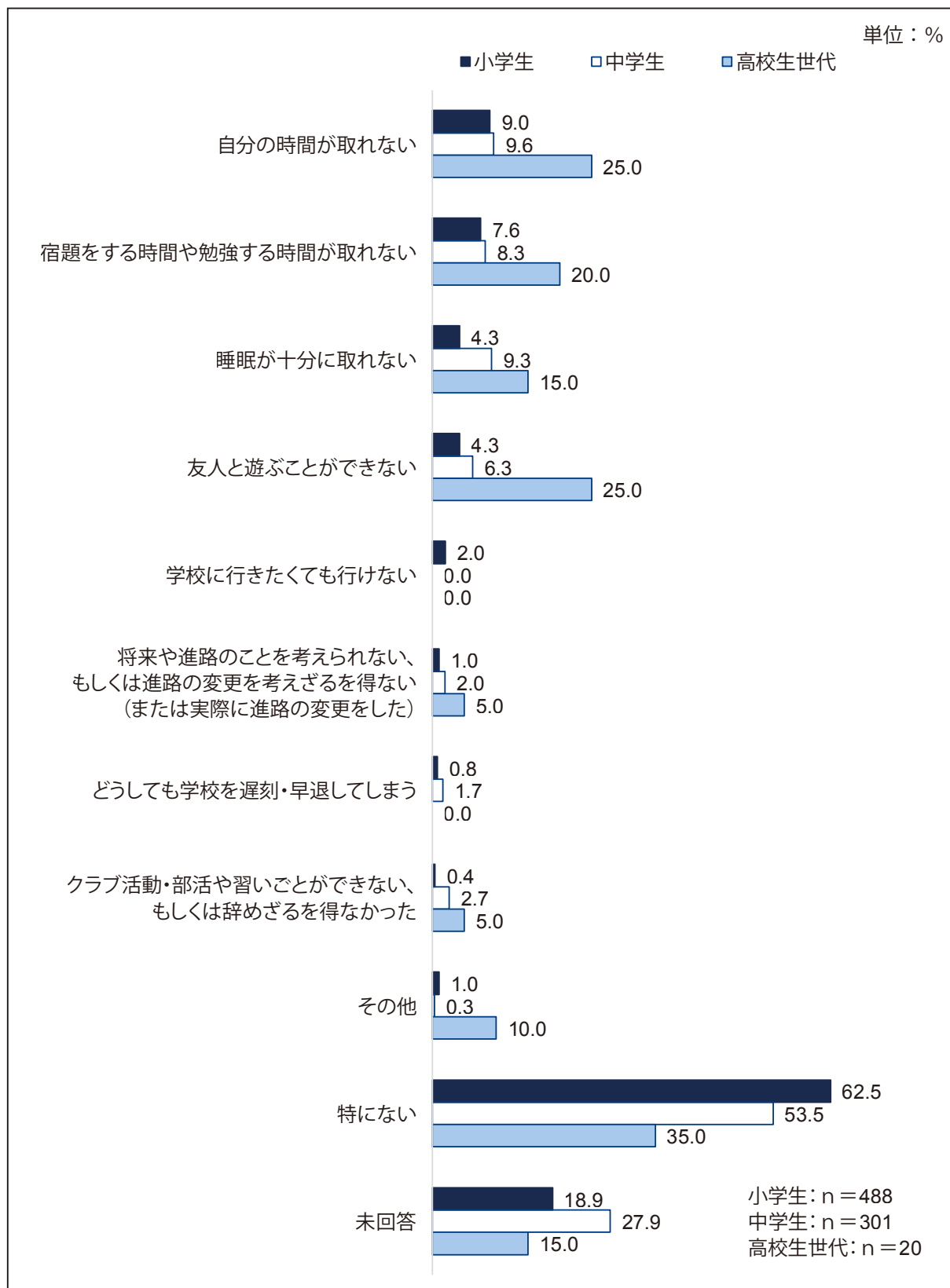
平日以外の日で一日あたりのお世話に費やす時間は、小学生（50.4%）・中学生（44.5%）・高校生世代（35.0%）すべてで「3 時間未満」が最も多く、次に「3～7 時間未満」となっている。高校生世代では「3～7 時間未満」が 30.0%と、小中学生と比べ 16 ポイント以上高い。

また平日と比較して「7 時間以上」の割合が小学生・中学生・高校生世代すべてで増加している。



⑩ (ア) お世話をしているためにできていないこと (問 21)

お世話をしているためにできていないことは、小学生・中学生・高校生世代とも「特にない」が最も高い。続いて小学生では「自分の時間が取れない」(9.0%)、「宿題をする時間や勉強する時間が取れない」(7.6%)となっている。中学生では「自分の時間が取れない」(9.6%)、「睡眠が十分に取れない」(9.3%)の順となっている。高校生世代では「自分の時間が取れない」(25.0%)と「友人と遊ぶことができない」(25.0%)が同率となっている。



⑩ (イ) お世話をしているためにできていないこと「その他」詳細 (自由回答) (問 21)

お世話をしているためにできていないことで「その他」を選択した対象者から 8 件 (小学生 5 件、中学生 1 件、高校生世代 2 件) の自由回答があり、その内容を検討して以下の通りカテゴリ分類を行った。

具体的な制約を挙げたものとしては「友人など人間関係上の制約」の 2 件、「学力、進路に関する制約」の 1 件があった。またお世話と直接的な関係があるかは判別できないものの、つらく感じていることについては「その他」(2 件) に分類した。

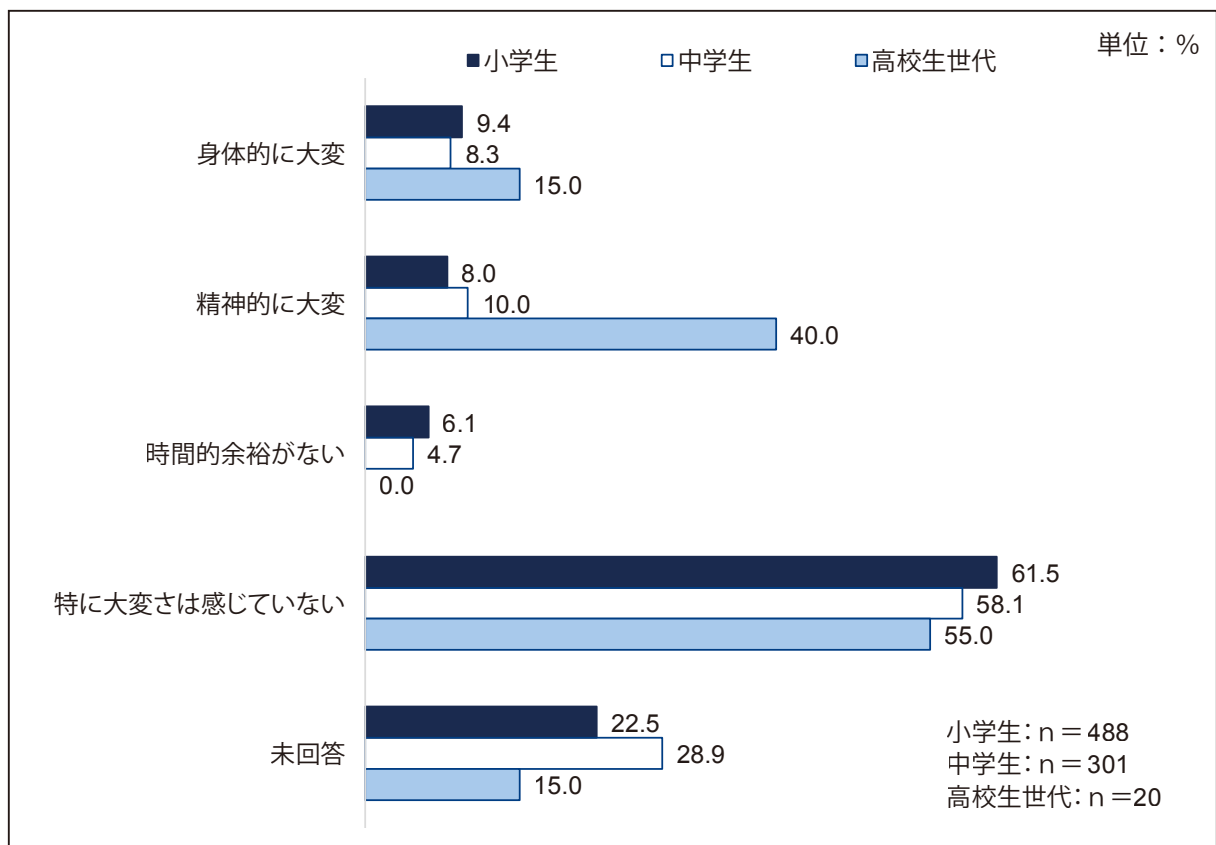
また「いない」と「していない」に分類された回答 (計 3 件) は「家族に世話の必要な人がいない」「お世話をしていない」という内容であった。

カテゴリ名	回答件数
友人など人間関係上の制約 (「友達と遊べない」等)	2
その他 (お世話と直接関係しないかもしれないが辛いと思っていること)	2
いない (「いない」「家族に世話の必要な人はいない」等)	2
学力、進路に関する制約	1
していない	1

※複数カテゴリに分類される自由回答があるため、各カテゴリの件数を加算した数値は自由回答の件数より多くなることもある。

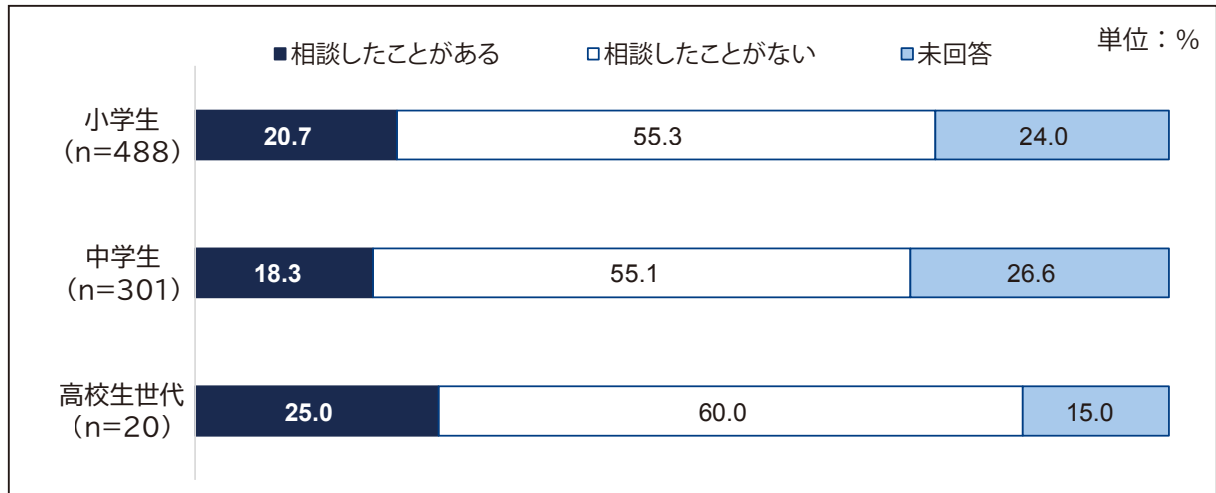
⑪ お世話をすることに感じている大変さ (問 22)

お世話をすることに感じている大変さは、小学生 (61.5%)・中学生 (58.1%)・高校生世代 (55.0%) すべてで「特に大変さは感じていない」が最も高くなっている。次に小学生では「身体的に大変」「精神的に大変」と続くが、中学生・高校生世代では「精神的に大変」「身体的に大変」の順となっている。



⑫お世話を必要としている家族のことや、お世話の悩みを相談した経験の有無（問 23）

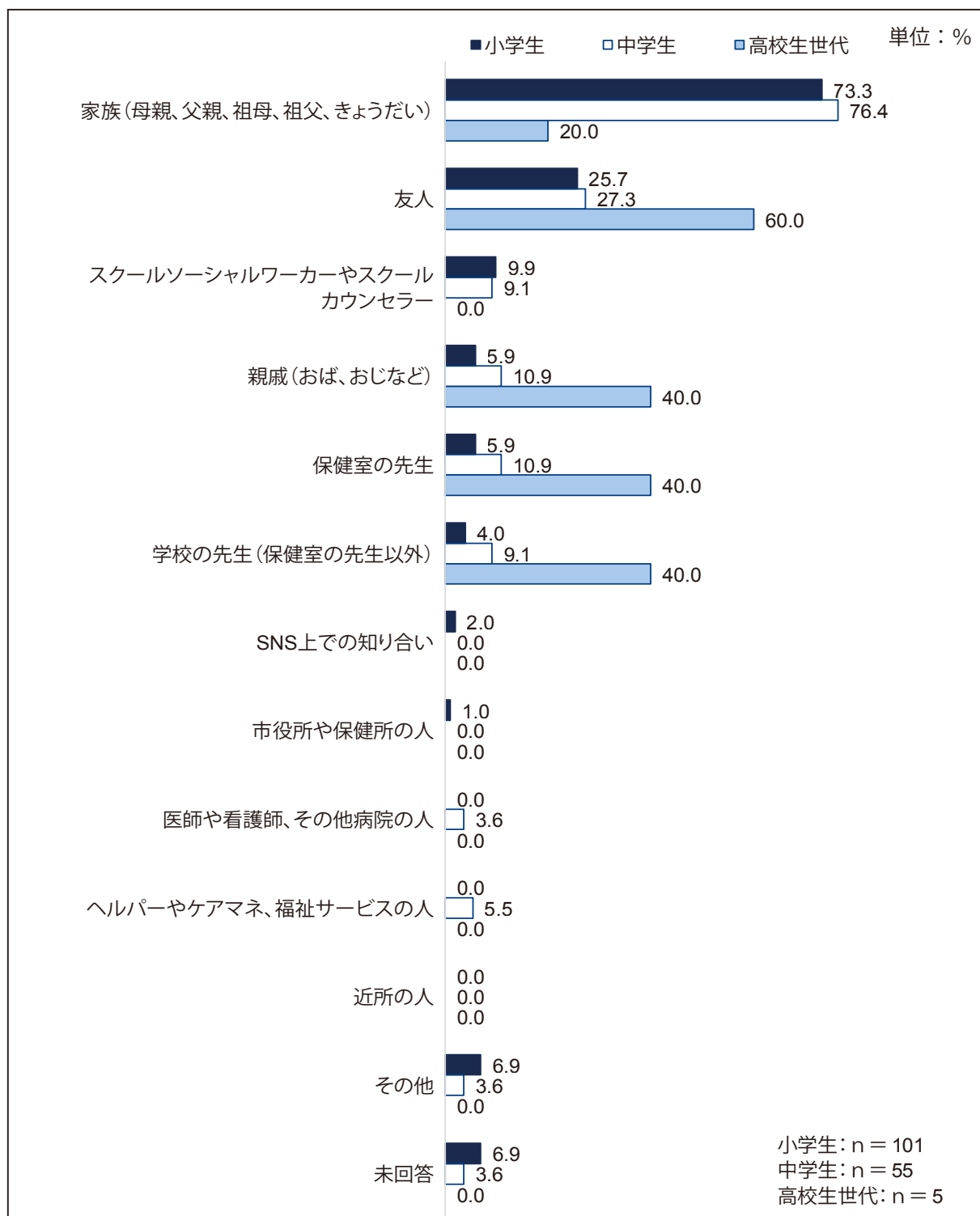
お世話を必要としている家族のことやお世話の悩みを「相談したことがない」が小学生 55.3%・中学生 55.1%・高校生世代 60.0%で、全学年で「相談したことがある」を大きく上回っている。一方「相談したことがある」は小学生 20.7%、中学生 18.3%、高校生世代 25.0%となっており、高校生世代が小中学生を 4～5 ポイント上回っている。



⑬ (ア) お世話を必要としている家族のことや、お世話の悩みを相談した相手 (問 24)

お世話を必要としている家族のことや、お世話の悩みを相談した相手は小中学生では「家族(母親、父親、祖母、祖父、きょうだい)」が最も多く、いずれも70%を超えており、次に「友人」である(約30%)。高校生世代では「友人」(60.0%)が最も多く、続いて「親戚(おば、おじなど)」「保健室の先生」「学校の先生」(いずれも約40%)の順となっている。また小中学生では「スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラー」を選択した回答者が一定数(約9～10%)いる。

一方で「SNS上の知り合い」は小学生で2%台(中学生、高校生世代は0%)、「市役所や保健所の人」は小学生で1%台(中学生、高校生世代は0%)、「医師や看護師、その他病院の人」は中学生で3%台(小学生、高校生世代では0%)、「ヘルパーやケアマネ、福祉サービスの人」は中学生で5%台(小学生、高校生世代では0%)、「近所の人」はいずれの世代でも0%となっている。



⑬ (イ) お世話を必要としている家族のことや、お世話の悩みを相談した相手「その他」詳細
(自由回答) (問 24)

お世話を必要としている家族のことや、お世話の悩みを相談した相手で「その他」を選択した対象者から 9 件 (小学生 7 件、中学生 2 件、高校生世代 0 件) の自由回答が得られ、その内容を検討し、以下の通りカテゴリ分類を行った。

カテゴリ「ない」(3 件) には「誰とも」といった記述が含まれており、この回答の意味合いとしては、⑫ (問 23) では相談した経験が「ある」と回答したものの中には具体的な相談相手はいないか、誰にも相談していないという可能性が考えられる。次にカテゴリ「特定の人物」(2 件) では固有名詞や具体的な職位を挙げた回答が含まれているが、その中にはお世話についての相談ではない内容も含まれていた。

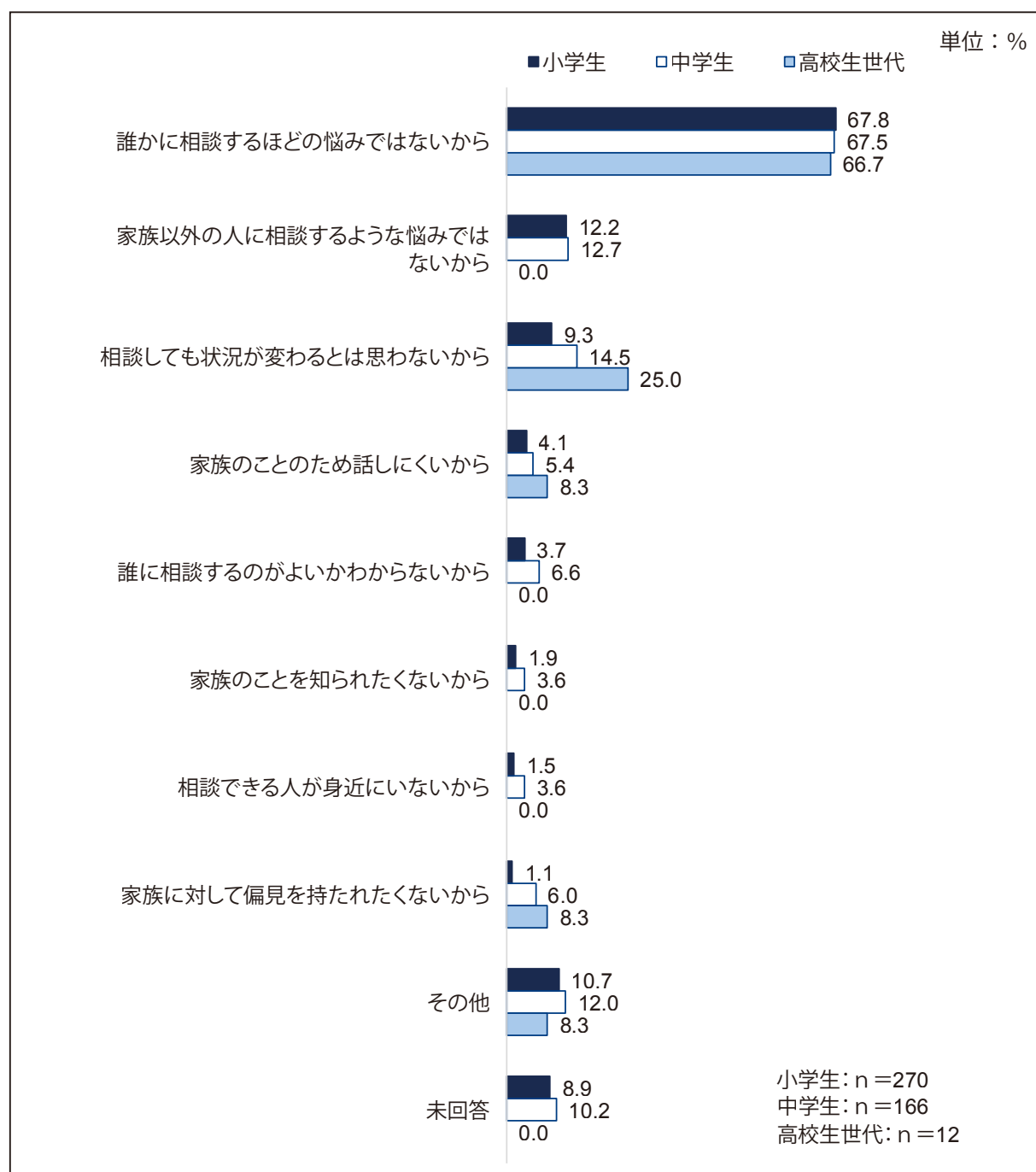
カテゴリ名	回答件数
ない (「ない」「なし」等)	3
特定の人物 (「校長先生」等)	2
わからない	2
判別不能	2

※複数カテゴリに分類される自由回答があるため、各カテゴリの件数を加算した数値は自由回答の件数より多くなることもある。

⑭ (ア) 相談していない理由 (問 25)

⑫ (問 23) にてお世話の悩みやお世話を要する家族のことを「相談した経験がない」と回答した対象者にその理由をたずねた結果、小学生・中学生・高校生世代すべてで「誰かに相談するほどの悩みではないから」が最も多く、いずれも 60%を超えている。次点以降では学年により違いがみられ(「その他」を除き)、小学生では「家族以外の人に相談するような悩みではないから」(12.2%)、「相談しても状況が変わるとは思わないから」(9.3%)の順に多いが、中学生では順位が入れ替わり「相談しても状況が変わるとは思わないから」(14.5%)、「家族以外の人に相談するような悩みではないから」(12.7%)の順となる。また高校生世代では二番目に「相談しても状況が変わるとは思わないから」(25.0%)が多く、続いて「家族のここのため話しにくいから」と「家族に対して偏見を持たれたくないから」が8.3%で同率となっている。

また小中学生ではそれぞれ「誰に相談するのがよいかわからないから」「家族のことを知られたくないから」「相談できる人が身近にいないから」が一定数選択されている。



⑭ (イ) 相談していない理由「その他」詳細 (自由回答) (問 25)

お世話の悩みやお世話を要する家族のことを相談していない理由として「その他」を選択した対象者から 50 件 (小学生 29 件、中学生 20 件、高校生世代 1 件) の自由回答が得られ、その内容を検討し、以下の通りカテゴリ分類を行った。

最も回答が多いカテゴリとしては「悩んでいないから」が 24 件、また類似するカテゴリでは「相談する必要がないから」の 8 件、「相談することではないから」の 1 件があった。次に回答が多かったのは「お世話が楽しいから」の 4 件であった。また「ない」(4 件)については、相談していない理由をたずねた⑭ (ア) (問 25) 内の選択肢中に該当するものがない、または特に理由がないが相談していないという可能性が考えられる。また数としては少ないが「相談できない理由がある」は 2 件あり、相談したら怒られる可能性がある、等の内容であった。

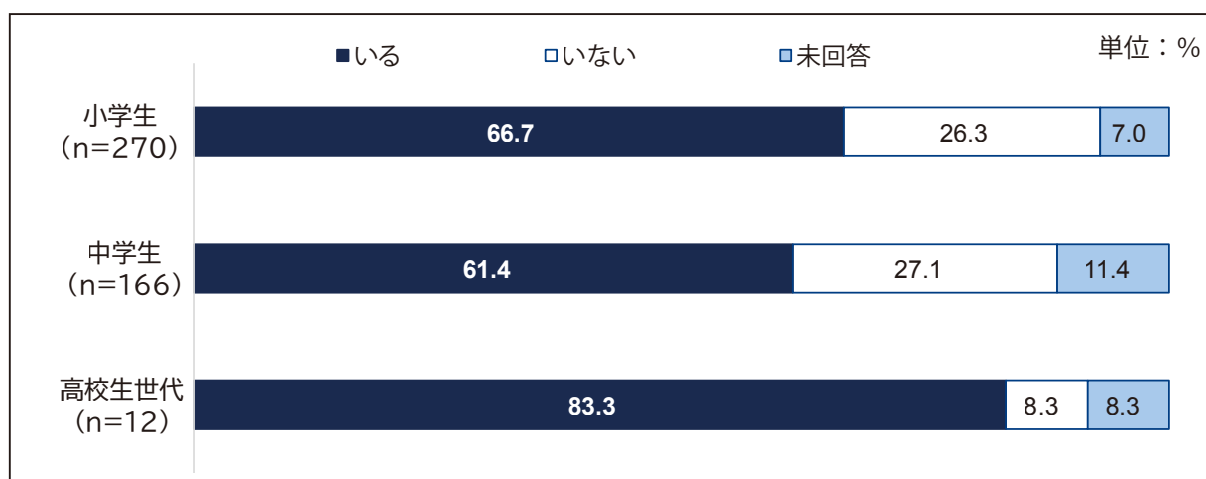
なお「お世話をしていないから」に分類された回答が 3 件あった。

カテゴリ名	回答件数
悩んでいないから (「悩みではない」「悩みがない」「相談することがない」等)	24
相談する必要がないから (「困っていない」「そんなことじゃない」「家族は元気だから」等)	8
ない (「ない」「特にない」等)	4
お世話が楽しいから	4
お世話をしていないから	3
相談できない理由があるから (「怒られるかもしれないから」等)	2
わからない (「よくわからない」等)	2
相談することではないから	1
面倒くさいから	1
その他 (お世話の対象のことを書いている)	1

※複数カテゴリに分類される自由回答があるため、各カテゴリの件数を加算した数値は自由回答の件数より多くなることもある。

⑮ 身近でお世話の悩みを聞いてくれる人の有無 (問 26)

⑫ (問 23) にてお世話の悩みやお世話を要する家族について「相談した経験がない」と回答した対象者に、お世話の悩みを身近で聞いてくれる人はいるかたずねたところ、小学生・中学生・高校生世代すべてで「いる」が「いない」を大きく上回った。ただし小中学生では高校生世代と比べ 20 ポイント近く「いない」が多い。

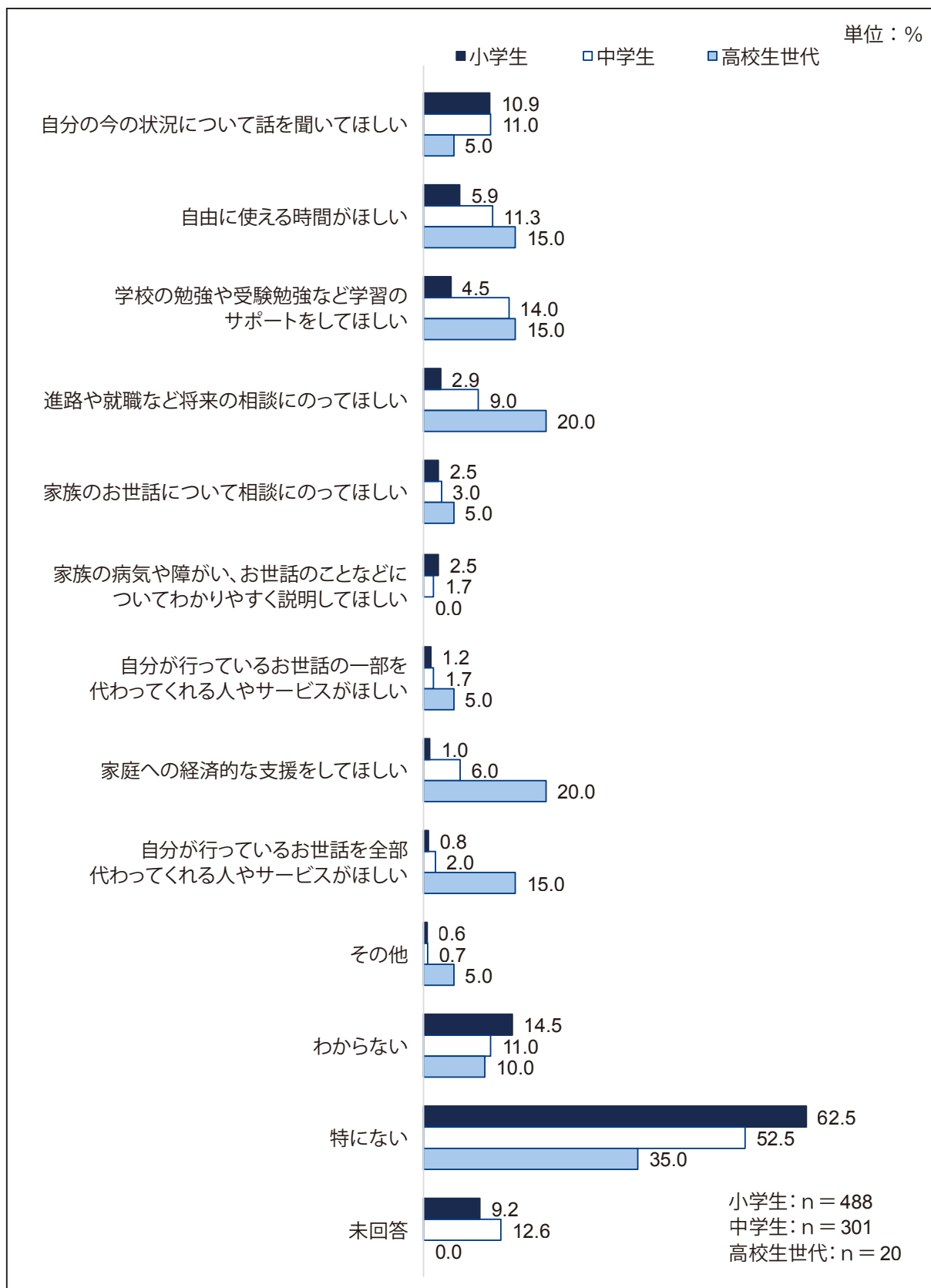


⑩ (ア) 学校やまわりの大人に助けてほしいことや必要としている支援 (問 27)

学校やまわりの大人に助けてほしいことや必要としている支援についてたずねたところ、小学生・中学生・高校生世代すべてで「特にない」が最多であるが、小学生(62.5%)、中学生(52.5%)と比べ高校生世代は35.0%と低い割合となっている。また「わからない」については小学生(14.5%)、中学生(11.0%)、高校生世代(10.0%)となっており、学年が下であるほど比率が高くなっている。

一方、具体的に助けてほしいことや必要としている支援内容を示した選択肢の回答状況からは、学年に応じ必要としている支援のニーズの違いが推測される。小学生は「自分の今の状況について話を聞いてほしい」(10.9%)、「自由に使える時間がほしい」(5.9%)、「学校の勉強や受験勉強など学習のサポートをしてほしい」(4.5%)の順に多いが、中学生は「学校の勉強や受験勉強など学習のサポートをしてほしい」(14.0%)、「自由に使える時間がほしい」(11.3%)、「自分の今の状況について話を聞いてほしい」(11.0%)の順となっている。また高校生世代では「進路や就職など将来の相談にのってほしい」「家庭への経済的な支援をしてほしい」が同率(20.0%)、次に「自由に使える時間がほしい」「学校の勉強や受験勉強など学習のサポートをしてほしい」「自分が行っているお世話を全部代わってくれる人やサービスがほしい」が同率(15.0%)となっている。

また具体的に助けてほしいことや必要としている支援について、高校生世代では「自分の今の状況について話を聞いてほしい」「家族の病気や障がい、お世話のことなどについてわかりやすく説明してほしい」の2項目を除いた全選択肢(8項目)において小学生・中学生よりも割合が高くなっている。



⑩ (イ) 学校やまわりの大人に助けてほしいことや必要としている支援「その他」詳細
(自由回答) (問 27)

学校やまわりの大人に助けてほしいことや必要としている支援について「その他」を選択した対象者から6件(小学生3件、中学生2件、高校生1件)の自由回答が得られ、その内容を検討し、以下の通りカテゴリ分類を行った。

具体的な内容としては「友人関係について」が2件、「お金がほしい」が2件であった。「ない」も2件あったが、これについては⑩(ア)(問27)の選択肢中に選択可能なものがなかったか、または選択肢にある「特にない」の代わりとして記入している可能性が考えられる。

カテゴリ名	回答件数
友人関係について	2
お金がほしい	2
ない	2

※複数カテゴリに分類される自由回答があるため、各カテゴリの件数を加算した数値は自由回答の件数より多くなることがある。

⑩ (ウ) 学校やまわりの大人に助けてほしいことや必要としている支援「代わってほしいお世話」の内容(自由回答) (問 27)

学校やまわりの大人に助けてほしいことや必要としている支援をたずねた⑩(ア)(問27)において「自分がしているお世話の一部を代わってほしい」(自由回答欄付きの選択肢)を選択した対象者から、92件の自由回答が得られ、その内容を検討し、以下の通りカテゴリ分類を行った。最も回答が多かったカテゴリは「ない」の27件、類似したカテゴリとして「いない」の2件があった。「ない」については⑩(ア)(問27)の選択肢中に選択可能なものがなかったか、または選択肢にある「特にない」の代わりとして記入している可能性が考えられる。また「世話をしていない」(4件)、「いない」(1件)もあった。この他「わからない」の6件を除いては具体的なお世話の内容や、特定の状況について記した回答が見られた。

具体的なお世話の内容で最も回答が多かったカテゴリは「家事」の15件であり、掃除や洗濯、料理のほか、複数の作業を組み合わせた家事について書かれている回答もあった。続いて「年下のきょうだい、乳児の世話」が8件、「遊び」「付き添い・見守り」「入浴・着替え」等の内容が見られた。

また具体的なお世話の内容ではなく、ある“特定の状況”を示した回答が見られた。回答の多かった順として「親が不在、忙しい時」(5件)、「大変な時、嫌なことがあった時」(5件)、「その他特定の状況」(4件)であった。また、具体的な内容や状況は示されていないが、カテゴリ「その他」に分類された回答の中には「やれるなら全部やってほしい」「サービスがほしい」等が見られた。

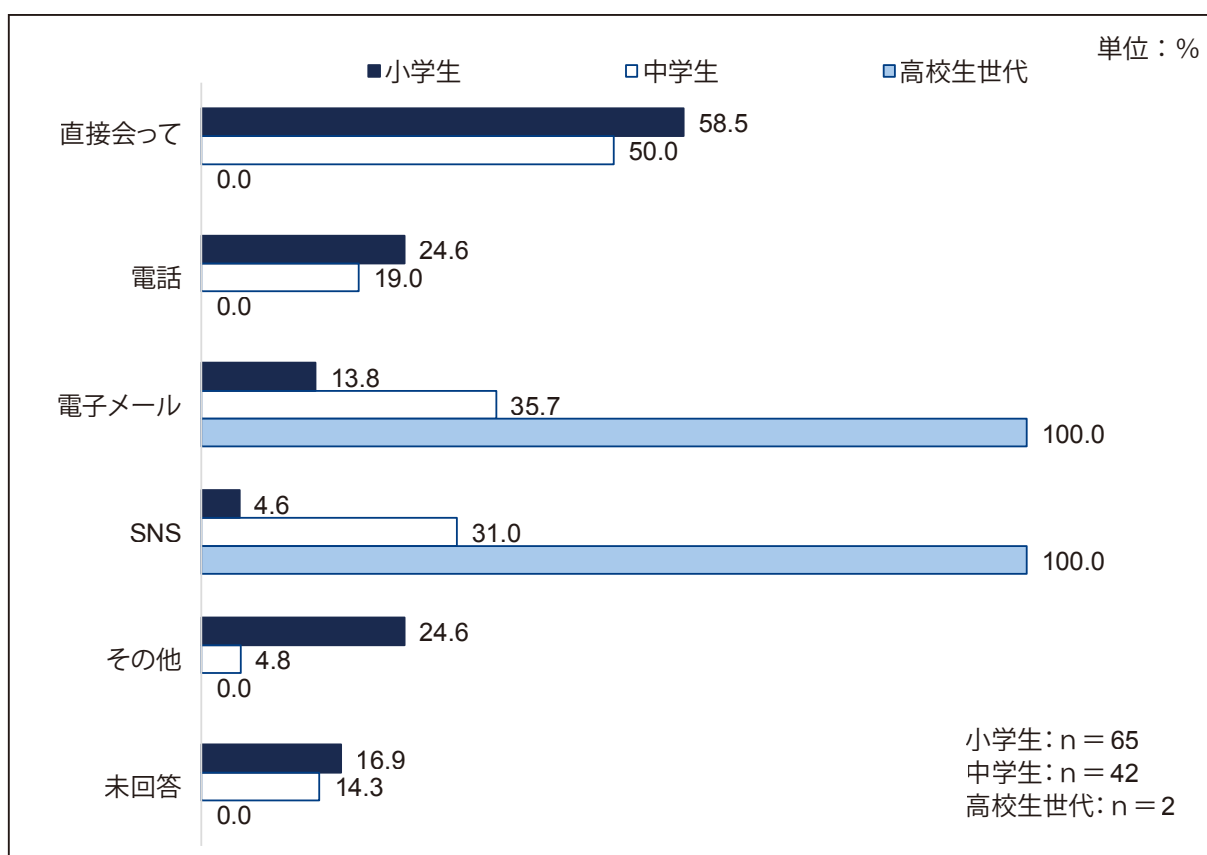
カテゴリ名	回答件数
ない(「ありません」「特にない」「なし」等)	27
家事(「家事」「そうじ」「洗濯」「お弁当を作る」等)	15
年下のきょうだい、乳児の世話	8
わからない	6
親が不在、忙しい時	5
大変な時、嫌なことがあった時	5
その他特定の状況(「宿題をしたい時」「具合が悪い時」等)	4
世話をしていない(「していない」「世話をしてない」等)	4
その他(「サービスがほしい」「やれるなら全部やってほしい」等)	4

カテゴリ名	回答件数
遊び（「一緒に遊んであげる」「遊んでくれる人」等）	3
付き添い、見守り（「つきそい」「一緒に散歩」「一緒に遊び」等）	3
入浴、着替え	2
マッサージ（「肩もみ」等）	2
その他特定のお世話の内容（「送り迎え」等）	2
いない	2
いない	1
その他（自分がしている世話の内容）	2
お世話のこと以外（「塾の大変さ」）	1
判別不能	4

※複数カテゴリに分類される自由回答があるため、各カテゴリの件数を加算した数値は自由回答の件数より多くなることもある。

⑰（ア）話や相談をしたい方法（問 28）

⑯（ア）（問 27）で「自分の今の状況について話を聞いてほしい」「家族のお世話について相談にのってほしい」を選択した回答者にのみ、どんな方法で話や相談をしたいかをたずねた。その結果、小中学生では具体的な方法としては「直接会って」が小学生（58.5%）・中学生（50.0%）で最多であった。続いて小学生では「電話」（24.6%）、「電子メール」（13.8%）、「SNS」（4.6%）の順だが、中学生では「電子メール」（35.7%）、「SNS」（31.0%）、「電話」（19.0%）の順となっている。一方、高校生世代では「電子メール」と「SNS」のみが選択されている（ただしこの設問では高校生世代の回答者が2ケースのみであるため、データの利用には注意を要する）。



⑰ (イ) 話や相談をしたい方法「その他」詳細 (自由回答) (問 28)

⑰ (ア) (問 28) で話や相談をしたい方法として「その他」を選択した対象者からは 18 件 (小学生 16 件、中学生 2 件、高校生世代 0 件) の自由回答が得られ、その内容を検討し、以下の通りカテゴリ分類を行った。

最も多く回答があったのはカテゴリ「ない」の 7 件であった。また類似したカテゴリとして「相談しなくてよい」が 3 件あった。これらの回答については、⑯ (ア) (問 27) では「自分の今の状況について話を聞いてほしい」「家族のお世話について相談にのってほしい」を選択したものの、⑰ (ア) (問 28) の選択肢中にその方法がなかったか、またはやはり相談はしなくてよいと考えた等の可能性が考えられる。

一方、具体的な相談先や手段についての回答も見られた。カテゴリ「具体的な属性」の 2 件では友達や学校の先生、また具体的な手段としては「直接話す」「SNS (LINE)」「アンケート」が各 1 件ずつ挙げられていた。

カテゴリ名	回答件数
ない (「ない」「特にない」「なし」等)	7
相談しなくてよい (「何もしなくてよい」「大丈夫です」等)	3
わからない	3
具体的な属性 (「友達」「学校の先生」等)	2
直接話す (「二人きりで話す」)	1
SNS (LINE)	1
アンケート	1

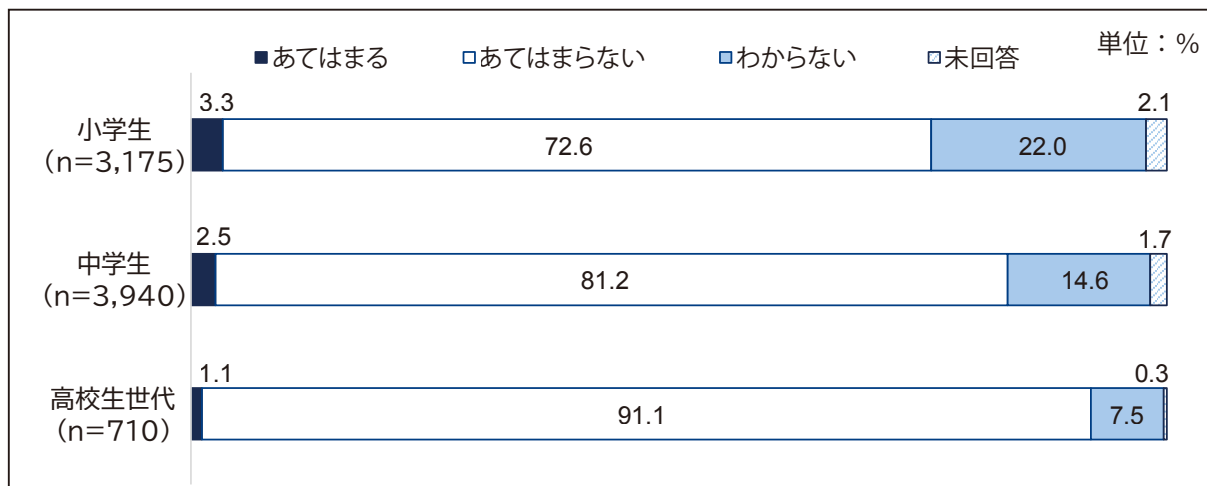
※複数カテゴリに分類される自由回答があるため、各カテゴリの件数を加算した数値は自由回答の件数より多くなることもある。

(4) ヤングケアラーについて

①ヤングケアラーの自己認識 (問 29)

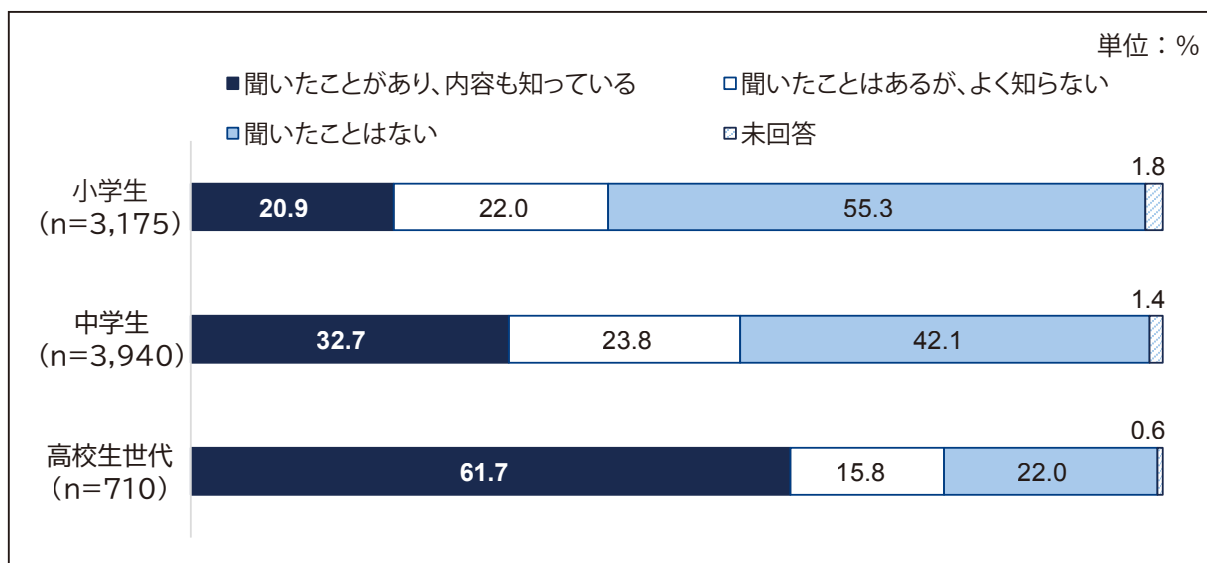
アンケートフォーム上でヤングケアラーについての説明文とイラストを提示したうえで、自分自身がヤングケアラーにあてはまるかどうかをたずねたところ、「あてはまらない」が小学生 (72.6%)・中学生 (81.2%)・高校生世代 (91.1%) すべてで最多であるが、その比率は学年が上であるほど高くなっている。また「あてはまらない」の次に回答された比率が高いのは「わからない」であるが、これは小学生 (22.0%)・中学生 (14.6%)・高校生世代 (7.5%) と学年が上であるほど低くなっている。

また自分自身がヤングケアラーに「あてはまる」と回答したのは小学生 (3.3%)・中学 (2.5%)・高校生世代 (1.1%) と学年が上であるほど比率が低くなっている。



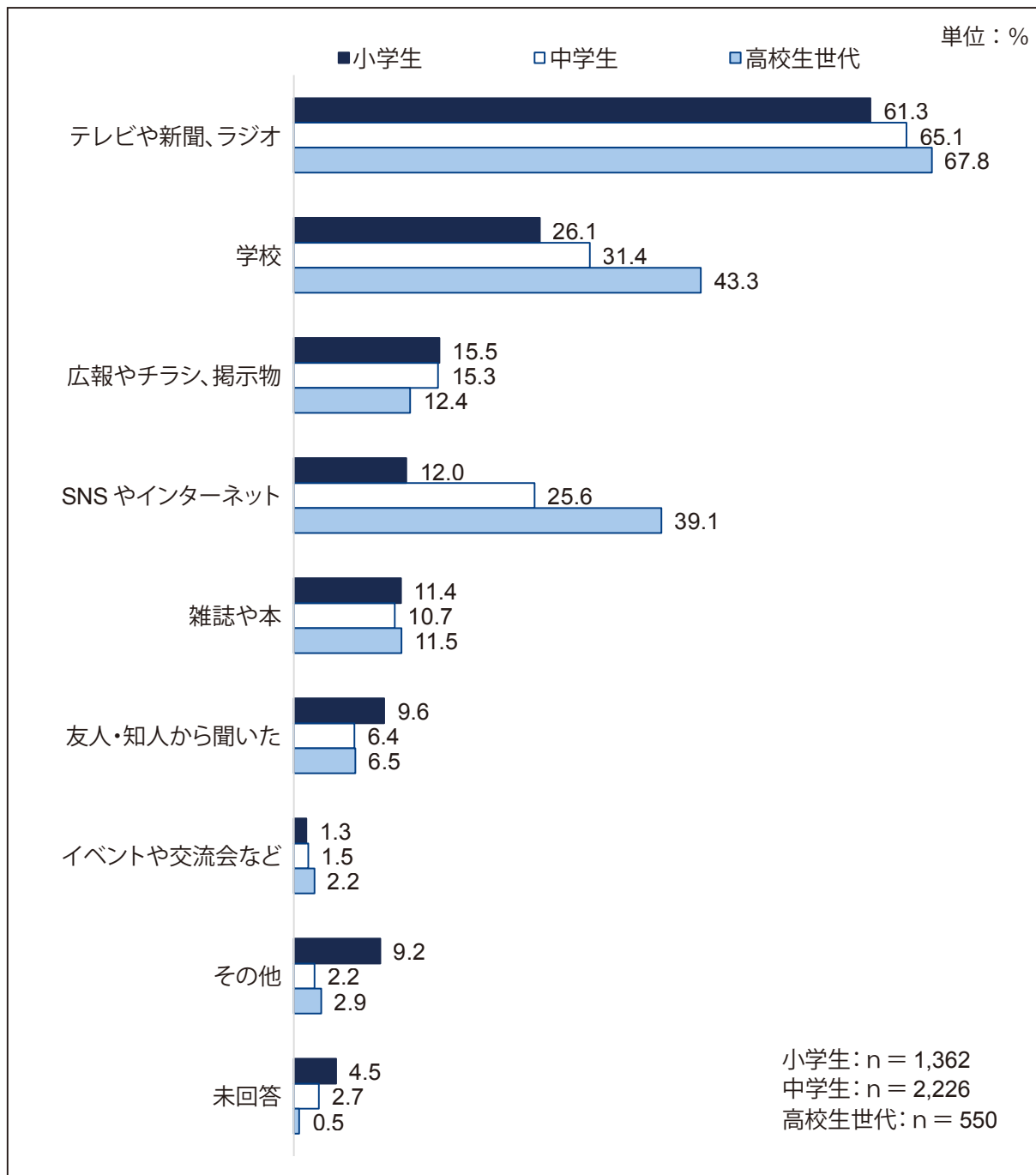
②ヤングケアラーという言葉と内容に対する認知状況 (問 30)

ヤングケアラーという言葉と内容に対する認知状況をたずねたところ、「聞いたことはない」が小学生 (55.3%)・中学生 (42.1%) では最多となっているが、高校生世代では「聞いたことがあり、内容も知っている」が最多 (61.7%) となっている。また小学生では続いて「聞いたことはあるが、よく知らない」(22.0%) 「聞いたことがあり、内容も知っている」(20.9%) の順となっているが、中学生では逆の順番となっている。学年が上であるほどヤングケアラーという言葉と内容に対し認知している児童・生徒の割合が高いことが考えられる。



③ (ア) ヤングケアラーという言葉を知ったきっかけ (認知経路) (問 31)

ヤングケアラーという言葉を知ったきっかけ (認知経路) では、小学生 (61.3%)・中学生 (65.1%)・高校生世代 (67.8%) すべてで「テレビや新聞、ラジオ」、続いて小学生 (26.1%)・中学生 (31.4%)・高校生世代 (43.3%) すべてで「学校」となっている。小学生では3番目に「広報やチラシ、掲示物」(15.5%) だが、中学生 (25.6%) と高校生世代 (39.1%) では「SNS やインターネット」である。



③ (イ) ヤングケアラーという言葉を知ったきっかけ (認知経路) 「その他」 詳細 (自由回答) (問 31)

ヤングケアラーという言葉を知ったきっかけ (認知経路) について「その他」を選択した対象者から 190 件 (小学生 125 件、中学生 49 件、高校生世代 16 件) の自由回答が得られ、その内容を検討し、以下の通りカテゴリ分類を行った。

最も分類された回答が多かったカテゴリは「家族」であり、親やきょうだいなどから直接聞いた場合もあれば、親など家族の仕事や、親が知人などと話している中に言葉が出てきたという回答も見られた。また次に多かったのが「わからない」であり、ヤングケアラーという言葉を知ったことはあるがきっかけは覚えていない、なんとなく、といった回答が見られた。また 3 番目に回答が多かったカテゴリとして「塾」があり、塾の授業や教材で勉強したといった回答が見られた。他には認知経路をたずねた③ (問 31) にあった選択肢に当てはまる回答 (「テレビ」「掲示物」「YouTube」「新聞の広告」等) がある一方、カテゴリ「書籍」では選択肢になかった「漫画」という回答が含まれている。

また、児童・生徒自身や親のヤングケアラー経験 (計 5 件) や、親の仕事や活動により福祉関係者とのかかわりがあり、それがきっかけとなっているという回答 (計 3 件) が見られた。

カテゴリ名	回答件数
家族 (「親から聞いた」「きょうだいから聞いた」他家族の仕事や知人がきっかけ)	71
わからない (「覚えていない」「知らない」「忘れた」「なし」等)	45
塾 (「塾の授業」「塾の教材」等)	23
テレビ (「CM」「ドラマ」「ニュース」等)	13
書籍 (本、漫画)	7
教科書、教材 (「社会の教科書」「中学受験の教材」等)	6
本調査の依頼文 (保護者・児童・生徒向け)	6
自分で調べた (「授業の課題として調べた」等)	4
掲示物 (「ポスター」「校内のポスター」等)	4
YouTube	3
福祉関係 (親の仕事・活動)	3
家族・友達が (現在または過去に) ヤングケアラー	3
自身が (現在または過去に) ヤングケアラー	2
文化センター	1
新聞 (広告)	1
学校の先生	1
判別不能	1

※複数カテゴリに分類される自由回答があるため、各カテゴリの件数を加算した数値は自由回答の件数より多くなることがある。

3. クロス集計結果

本調査では(1)家族のお世話の有無、(2)ヤングケアラーの自己認識を説明変数、健康状態や学校への出席状況(出欠、遅刻や早退)、学校生活等であてはまること等を被説明変数とし、小学生・中学生・高校生世代別にクロス集計を行った。以下、その中から5ポイント以上の差が見られた内容について主に提起記述する。

※表内で5ポイント以上の差が見られた部分に網掛けをした。

(1) 家族のお世話の有無による差

①家族のお世話の有無 × 健康状態

健康状態については、高校生世代のみ「よい」「あまりよくない」において家族のお世話の有無により約15～20ポイントの差が見られる。

単位：％

	家族のお世話	n	よい	まあよい	ふつう	あまりよくない	よくない	未回答
小学生	有	488	57.4	18.2	19.7	3.7	0.8	0.2
	無	2630	56.7	20.7	18.4	3.8	0.3	0.2
中学生	有	301	48.8	21.9	20.9	6.6	1.7	0.0
	無	3598	51.5	24.4	19.2	4.2	0.7	0.1
高校生世代	有	20	35.0	25.0	20.0	20.0	0.0	0.0
	無	689	54.9	23.7	15.1	4.6	1.0	0.7

②家族のお世話の有無 × 学校への通学状況(出欠)

学校への出席状況(出欠)については、中学生では「ほとんど欠席しない」「たまに欠席する」と回答した群でお世話をしている家族の有無により5ポイント以上の差が見られた。また高校生世代では「たまに欠席する」と回答した群で約6ポイント、「よく欠席する」と回答した群で約8ポイントの差が見られた。

単位：％

	家族のお世話	n	ほとんど欠席しない	たまに欠席する	よく欠席する	未回答
小学生	有	488	71.1	19.1	9.4	0.4
	無	2630	72.8	17.3	9.5	0.4
中学生	有	301	70.1	15.3	14.3	0.3
	無	3598	77.3	10.1	12.4	0.2
高校生世代	有	20	80.0	15.0	5.0	0.0
	無	689	77.5	9.1	12.9	0.4

③家族のお世話の有無 × 学校への通学状況（遅刻や早退）

学校への出席状況（遅刻や早退の状況）では、「ほとんどしない」と回答した中学生では家族のお世話の有無により約8ポイント、また「たまにする」では約6ポイントの差が見られた。高校生世代でも「ほとんどしない」で約6ポイント、「たまにする」で約9ポイントの差が見られた。中高生とも「ほとんどしない」ではお世話する家族が「いない」ほうのポイントが高く、「たまにする」ではお世話する家族が「いる」ほうのポイントが高くなっている。

単位：％

	家族のお世話	n	ほとんど しない	たまにする	よくする	未回答
小学生	有	488	81.1	16.4	1.8	0.6
	無	2630	82.6	14.1	2.9	0.4
中学生	有	301	80.7	15.6	2.7	1.0
	無	3598	88.2	9.8	1.7	0.3
高校生 世代	有	20	80.0	20.0	0.0	0.0
	無	689	85.6	10.6	3.2	0.6

④家族のお世話の有無 × 学校生活等であてはまること

学校生活等であてはまることでは、小学生・中学生・高校生世代すべてにおいて、お世話をしている家族ありの群がなしの群を5ポイント以上上回る項目は、「宿題や課題ができていないことが多い」1つであった。また中学生と高校生世代において、同様にお世話をしている家族ありの群が5ポイント以上上回る項目は、「持ちものの忘れものが多い」「提出しなければいけない書類などの提出が遅れることが多い」の2つであった。なお以上の3項目においては、学年が上であるほどお世話をしている家族ありの群となしの群との間のポイント差が大きくなっている。

また高校生世代のみで、お世話をしている家族ありの群がなしの群を5ポイント以上上回った項目は「学校では1人ですぐすことが多い」「友人と遊んだり、おしゃべりしたりする時間が少ない」の2つであった。

そして「特になし」をみると以上の項目とは逆に、中学生と高校生世代において、お世話をしている家族なしの群が有の群を5ポイント以上上回っており、その差は中学生で9.1ポイント、高校生世代では19.9ポイントであった。小学生ではこの差は4.5ポイントであり、学年が上であるほどお世話をしている家族ありの群となしの群との間の差が大きくなっている。

単位：％

	家族のお世話	n	授業中にいねむりすることが多い	宿題や課題ができていないことが多い	持ちものの忘れものが多い	クラブ活動・部活動や習いごとを休むことが多い	提出が遅れることが多い	提出しなければいけない書類などの提出が遅れることが多い	修学旅行などの宿泊行事を欠席する	保健室ですぐすことが多い	学校では1人ですぐすことが多い	友人と遊んだり、おしゃべりしたりする時間が少ない	特にない	未回答
小学生	有	488	7.0	20.7	28.1	1.6	20.3	1.0	1.8	5.5	6.4	58.4	1.4	
	無	2630	3.6	14.1	24.1	1.7	16.0	0.5	0.8	5.7	5.0	62.9	1.7	
中学生	有	301	15.0	25.2	32.2	10.6	30.2	0.7	2.3	6.0	7.0	46.2	2.3	
	無	3598	12.8	17.1	23.5	7.4	21.4	0.5	0.5	6.2	5.7	55.3	2.4	
高校生世代	有	20	25.0	25.0	30.0	5.0	30.0	0.0	0.0	15.0	15.0	30.0	5.0	
	無	689	28.7	15.8	15.4	5.2	14.1	1.7	1.5	10.0	9.1	49.9	1.3	

⑤家族のお世話の有無 × 現在の悩みや困りごと

以下では、まず「その他」や「特になし」を除いた現在の悩みや困りごとについて、お世話をしている家族がありの群となしの群との間に5ポイント以上の差がある項目を見ていく。小学生では5ポイント以上の差がある項目は見られない。しかし中学生では、「その他」と「特になし」を除いた)10項目中「クラブ活動・部活動のこと」「自分と家族との関係のこと」「自分のために使える時間が少ない」の3項目でお世話をしている家族がありの群がなしの群を5ポイント以上上回っている。また高校生世代では、同じ10項目中8項目において、お世話をしている家族がありの群がなしの群を5ポイント以上上回っている。

そして「特になし」については、小学生・中学生・高校生世代すべてにおいて以上の項目とは逆に、お世話をしている家族なしの群がありの群を5ポイント以上上回っている。また学年が上であるほどそのポイント差は大きくなっている。

単位：％

	家族のお世話	n	友人との関係のこと	学業や成績のこと	進路のこと	クラブ活動・部活動のこと	塾や習いごとのこと	学費(授業料)などをふくむ、家庭の経済的状況のこと	自分と家族との関係のこと	家族内の人間関係のこと	病気や障がいのある家族のこと	自分のために使える時間が少ない	その他	特になし	未回答
小学生	有	488	19.7	13.9	8.4	3.1	9.6	4.7	7.0	5.7	2.9	8.6	3.3	55.3	5.3
	無	2630	17.4	12.1	8.3	3.0	10.6	3.1	5.9	4.1	0.8	4.0	3.2	61.0	4.4
中学生	有	301	17.3	35.9	36.5	19.3	11.6	10.0	12.6	8.0	6.0	11.0	3.7	35.9	4.3
	無	3598	15.9	35.6	32.2	11.2	10.1	5.5	6.6	6.0	1.1	5.6	2.2	43.2	4.0
高校生世代	有	20	30.0	50.0	50.0	10.0	5.0	35.0	15.0	20.0	20.0	25.0	0.0	15.0	5.0
	無	689	16.8	43.1	47.2	11.9	3.3	10.0	7.3	7.0	1.9	5.2	3.6	30.0	2.0

⑥家族のお世話の有無 × 相談相手の有無

相談相手の有無では、小学生では「相談相手や話を聞いてくれる人がある」の項目でお世話している家族ありの群がなしの群よりも5ポイント以上高い。

また「相談相手や話を聞いてくれる人がいない」の項目では、高校生世代のみでお世話している家族ありの群がなしの群よりも5ポイント以上高くなっている。なお「相談相手や話を聞いてくれる人がある」と「相談相手や話を聞いてくれる人がいない」の2つでは、どちらもお世話している家族ありの群がなしの群よりも比率が高くなっている。

一方「相談相手や話を聞いてくれる人はいるが、相談や話が特にないので、話をしない」では逆に、小学生と高校生世代において、お世話している家族なしの群が家族ありの群よりも5ポイント以上高くなっている。

単位：％

	家族のお世話	n	相談相手や話を聞いてくれる人がある	相談相手や話を聞いてくれる人がいない	相談相手や話を聞いてくれる人はいるが、相談や話はしたくない	相談相手や話を聞いてくれる人はいるが、相談や話が特にないので、話をしない	未回答
小学生	有	488	49.8	4.5	14.1	12.7	18.9
	無	2630	42.2	2.9	15.3	20.1	19.5
中学生	有	301	54.2	4.7	19.6	10.0	11.6
	無	3598	49.5	3.3	19.4	13.9	13.9
高校生世代	有	20	60.0	10.0	20.0	0.0	10.0
	無	689	55.9	3.6	21.0	11.2	8.3

⑦家族のお世話の有無 × 性別

性別では、男性では小中学生でお世話している家族が「いる」が5ポイント以上「いない」を上回っているが、高校生世代では反転し「いない」の比率が高くなっている。一方女性では小学生・中学生・高校生世代すべてで「いない」が「いる」を5ポイント以上上回っており、比率の差はいずれの学年でも6ポイント台であり、学年間での大きな差は見られない。

単位：％

	家族のお世話	n	男性	女性	その他	未回答
小学生	有	488	54.5	45.1	0.2	0.2
	無	2630	47.7	51.5	0.6	0.1
中学生	有	301	54.2	44.2	1.3	0.3
	無	3598	48.2	50.3	1.2	0.3
高校生世代	有	20	40.0	60.0	0.0	0.0
	無	689	43.7	53.8	2.3	0.1

(2) ヤングケアラーの自己認識による差

①ヤングケアラーの自己認識 × 健康状態

以下では、健康状態について、ヤングケアラーの自己認識の違いにより 5 ポイント以上の差が生じている項目についてとりあげる。

まずヤングケアラーの自己認識があてはまる群とあてはまらない群を比較すると、健康状態が「よい」と「まあよい」について、高校生世代のみ 10 ポイント以上の差でヤングケアラーにあてはまる群があてはまらない群を下回っている。健康状態が「ふつう」については、中学生のみヤングケアラーにあてはまる群があてはまらない群よりも 5 ポイント以上下回っている。また高校生世代では中学生よりも群間の差が大きく、健康状態「ふつう」で 20 ポイント以上、「あまりよくない」で 8 ポイント以上ある。また健康状態が「あまりよくない」については、中学生・高校生世代でヤングケアラーにあてはまる群があてはまらない群よりも 5 ポイント以上上回っている。また中学生に比べ高校生世代ではポイント差が広がっている。

そしてヤングケアラーの自己認識があてはまらない群とわからない群を比較すると、健康状態が「よい」では小学生 (11.4 ポイント差)・中学生 (6.9 ポイント差)・高校生世代 (22.1 ポイント差) すべてであてはまらない群がわからない群を上回っている。また逆に健康状態が「ふつう」「あまりよくない」「よくない」では、高校生世代のみでわからない群があてはまらない群を 5 ポイント以上上回っている。

単位：％

	ヤングケアラー 認識	n	よい	まあよい	ふつう	あまり よくない	よくない	未回答
小学生	あてはまる	104	58.7	16.3	16.3	4.8	2.9	1.0
	あてはまらない	2304	59.3	19.5	17.4	3.4	0.2	0.2
	わからない	700	47.9	24.3	22.1	5.0	0.6	0.1
中学生	あてはまる	98	55.1	21.4	13.3	9.2	1.0	0.0
	あてはまらない	3200	52.1	24.3	18.9	4.1	0.6	0.1
	わからない	575	45.2	24.2	23.5	5.7	1.4	0.0
高校生 世代	あてはまる	8	37.5	12.5	37.5	12.5	0.0	0.0
	あてはまらない	647	56.1	23.8	14.4	4.3	0.6	0.8
	わからない	53	34.0	24.5	24.5	11.3	5.7	0.0

②ヤングケアラーの自己認識×現在の悩みや困りごと

現在の悩みや困りごとについては、小学生では「友人との関係」「学業や成績」「塾や習いごと」「自分と家族との関係」「家族内の人間関係」「自分のために使える時間が少ない」の6項目において、ヤングケアラーにあてはまる群があてはまらない群を5ポイント以上上回っている。

中学生では「友人との関係」「進路」「学費(授業料)などをふくむ、家庭の経済的状況」「自分と家族との関係」「家庭内の人間関係」「自分のために使える時間が少ない」の6項目において、ヤングケアラーに「あてはまる」群が「あてはまらない」群を5ポイント以上上回っている。

高校生世代では「友人との関係」「学業や成績」「進路」「学費(授業料)などをふくむ、家庭の経済的状況」「家庭内の人間関係」「病気や障がいのある家族」「自分のために使える時間が少ない」の7項目において、ヤングケアラーにあてはまる群があてはまらない群を5ポイント以上上回っている。

また、「特にない」の回答状況では小学生・中学生・高校生世代すべてでヤングケアラーにあてはまらない群があてはまる群を上回っており、小学生で14.2ポイント、中学生で7.6ポイント、高校生世代で30.1ポイントと特に高校生世代で差が大きい。

単位：％

	ヤングケアラー認識	n	友人との関係のこと	学業や成績のこと	進路のこと	クラブ活動・部活動のこと	塾や習いごとのこと	学費(授業料)などをふくむ、家庭の経済的状況のこと	自分と家族との関係のこと	家族内の人間関係のこと	病気や障がいのある家族のこと	自分のために使える時間が少ない	その他	特にない	未回答
小学生	あてはまる	104	27.9	19.2	9.6	4.8	14.4	6.7	12.5	13.5	4.8	10.6	4.8	48.1	4.8
	あてはまらない	2304	16.8	11.3	7.8	3.0	9.4	2.8	5.0	3.3	0.6	3.9	2.8	62.3	4.2
	わからない	700	20.3	15.1	9.9	3.7	13.6	4.7	8.7	7.1	2.3	7.0	4.1	55.1	4.9
中学生	あてはまる	98	23.5	34.7	41.8	16.3	15.3	12.2	12.2	14.3	5.1	15.3	2.0	35.7	5.1
	あてはまらない	3200	15.6	35.4	32.1	11.4	10.4	5.5	6.3	5.5	1.1	5.4	2.1	43.3	3.7
	わからない	575	17.6	37.6	34.1	14.1	8.0	7.0	10.0	8.7	3.0	7.5	3.8	40.3	5.0
高校生世代	あてはまる	8	37.5	50.0	62.5	0.0	0.0	50.0	0.0	37.5	25.0	50.0	0.0	0.0	0.0
	あてはまらない	647	16.8	43.9	47.0	12.5	3.6	10.4	7.3	6.6	2.0	4.9	3.7	30.1	1.7
	わからない	53	17.0	34.0	47.2	5.7	1.9	9.4	11.3	13.2	3.8	9.4	1.9	30.2	5.7

③ヤングケアラーの自己認識 × お世話をすることを感じている大変さ

お世話をすることに対して感じている大変さについて、ヤングケアラーの自己認識の違いにより 5 ポイント以上の差が生じている項目をとりあげる。

まずヤングケアラーにあてはまる群とあてはまらない群間をみると、「身体的に大変」については小学生・中学生・高校生世代すべてでヤングケアラーにあてはまる群があてはまらない群を 10 ～ 20 ポイント上回っている。「精神的に大変」については、中学生・高校生世代でヤングケアラーにあてはまる群があてはまらない群を 10 ～ 50 ポイント上回っている（ただし、本項目の集計については対象となる高校生世代のサンプル数が少ないため、結果の利用には注意が必要である）。また小学生においてもヤングケアラーにあてはまる群があてはまらない群を 4.7 ポイントとほぼ 5 ポイント近く上回っている。「時間的余裕がない」については、中学生のみヤングケアラーにあてはまる群があてはまらない群を 8 ポイント上回っている。また小学生においてもヤングケアラーにあてはまる群があてはまらない群を 4.8 ポイントとほぼ 5 ポイント近く上回っている。

次にヤングケアラーなのかがわからない群とあてはまらない群の間にも差が見られるものについてとりあげる。「身体的に大変」については小学生のみ約 7 ポイント、わからない群があてはまらない群を上回っている。「精神的に大変」については小学生と中学生でわからない群があてはまらない群を約 5 ～ 8 ポイント上回っている。

単位：％

	ヤングケアラー 認識	n	身体的に 大変	精神的に 大変	時間的余裕 がない	特に大変さは 感じていない	未回答
小学生	あてはまる	57	15.8	10.5	8.8	66.7	7.0
	あてはまらない	226	5.8	5.8	4.0	62.8	26.5
	わからない	173	12.7	11.0	8.7	67.1	12.1
中学生	あてはまる	49	16.3	16.3	10.2	67.3	8.2
	あてはまらない	134	6.0	6.0	2.2	54.5	35.1
	わからない	99	9.1	14.1	5.1	65.7	22.2
高校生 世代	あてはまる	5	40.0	80.0	0.0	40.0	0.0
	あてはまらない	10	10.0	30.0	0.0	60.0	20.0
	わからない	5	0.0	20.0	0.0	60.0	20.0

④ヤングケアラーの自己認識 × お世話の有無

以下では児童・生徒のお世話をしている家族の有無について、ヤングケアラーの自己認識の違いにより5ポイント以上の差が生じている項目を主に取り上げて検討する。

まず、お世話をしている家族がいると答えた対象者のヤングケアラーの自己認識をみると、小学生・中学生・高校生世代すべてでヤングケアラーに「あてはまる」「わからない」「あてはまらない」の順に比率が高く、あてはまる群があてはまらない群を小中学生で45ポイント、高校生世代で60ポイント以上上回っている。また自身がヤングケアラーなのかわからない群もあてはまらない群を約15ポイント上回っている。

一方、お世話をしている家族がいないと答えた対象者のヤングケアラーの自己認識をみると、小学生・中学生・高校生世代すべてでヤングケアラーに「あてはまらない」「わからない」「あてはまる」の順に比率が高く、あてはまらない群があてはまる群を小中学生で約45ポイント、高校生世代で約61ポイント上回っている。またヤングケアラーにあてはまらない群を自身がヤングケアラーなのかわからない群と比較しても約8～16ポイント上回っている。

そして、小学生・中学生・高校生世代における違いをみると、お世話をしている家族がいる・いないどちらの場合においても、ヤングケアラーにあてはまる群とあてはまらない群間の差は学年が上であるほど大きくなる。逆にヤングケアラーにあてはまらない群と自身がヤングケアラーなのかわからない群との差は学年が上であるほど少なくなる。

単位：％

	ヤングケアラー認識	n	いる	いない	未回答
小学生	あてはまる	104	54.8	44.2	1.0
	あてはまらない	2304	9.8	88.9	1.3
	わからない	700	24.7	72.7	2.6
中学生	あてはまる	98	50.0	50.0	0.0
	あてはまらない	3200	4.2	95.2	0.6
	わからない	575	17.2	81.4	1.4
高校生世代	あてはまる	8	62.5	37.5	0.0
	あてはまらない	647	1.5	98.3	0.2
	わからない	53	9.4	90.6	0.0

4. 自由回答（問 32）

（1）カテゴリ分類について

「ヤングケアラーへの支援に必要だと思うこと、アンケートの感想、意見、市への要望等」について自由意見を求めたところ、全体で 3,725 件の回答が挙げられた（小学生 1,717 件、中学生 1,785 件、高校生世代 216 件、学年「その他」6 件、学年「無回答」1 件）。まず、それらの回答内容を検討したうえで 8 カテゴリに分類した（表 1）。さらに表 1 のカテゴリ No.1「ヤングケアラーへの支援・施策に関すること」に分類された回答をその内容によりさらに 8 カテゴリに分類した（表 2）。

その結果、自由回答全体（表 1）では「ヤングケアラーへの支援」（41.0%）が最も多く、次いで「感想・意見・要望」（20.6%）、「アンケートの感想」（10.5%）となった。また「ヤングケアラーへの支援・施策に関すること」（表 2）では「認知度・理解度の向上」（23.7%）が最も多く、次いで「相談に関わる内容」（14.5%）、「普及啓発」（13.1%）であった。

表1 自由回答全体の分類

自由回答n = 3,725

No.	カテゴリ名	n	%	内容（キーワード・キーセンテンス）
1	ヤングケアラーへの支援・施策に関すること	1681	41.0	詳細は表2記載
2	感想・意見・要望	845	20.6	学校や府中市に求める感想・意見・要望やアンケートを通じて感じたこと
3	アンケートの感想	429	10.5	アンケート自体の感想
4	お世話をしている子どもの声	219	5.3	お世話をしている家族がいると回答した児童・生徒の意見・要望・求める支援
5	相談・悩み・強い意見	114	2.8	子どもからの話を聞いてほしい・理解してほしい・助けてほしい・悩みなどの声
6	市や学校への設備や制度への要望	65	1.6	府中市の設備、環境、用具、制度などへの感想・意見・要望
7	特にない	695	17.0	特にない・わからない・悩んでいない・ない
8	判別不能	51	1.2	判別不能

要素n = 4,099*

※自由回答（3,725 件）の中には複数カテゴリの要素が含まれるものがあるため、全カテゴリに分類された要素数の合計（要素n）は自由回答件数nよりも多くなっている。

表2 ヤングケアラーへの支援・施策に関することの分類

No.	カテゴリ名	n	%	内容(キーワード・キーセンテンス)
ア	認知度・理解度の向上	398	23.7	ヤングケアラーの概念を知ってもらうこと
イ	相談にかかわる内容	244	14.5	子どもたちの意見を伝えられる話しやすい環境づくり、相談しやすい体制や制度の充実、相談をすること
ウ	普及啓発	221	13.1	ヤングケアラーの普及啓発や認知度の拡大に向けて必要なことや方法
エ	人や制度の支援	208	12.4	学校・施設・市からのサポートや人の支援・支援制度・ボランティアの充実
オ	お金の支援	179	10.6	支援金・募金・補助金など
カ	施設・物品などの支援	136	8.1	施設の設立、施設の提供や補助、物品の支援
キ	気づき・声掛け	104	6.2	周囲の理解や寄り添い、気遣い、配慮、声掛けや見守り、子どもの意思の尊重
ク	その他	191	11.4	その他の支援

要素n= 1,681

(2) 主な回答例

児童・生徒からの自由回答部分(問32)に記入された意見等について、原則原文を掲載している(ただし回答内の固有名詞や個人的な事情等は削除している。また複数カテゴリの内容を含む回答から、各カテゴリに対応する部分のみ抜粋して掲載している回答例がある)。

① (ア) ヤングケアラーへの支援・施策に関すること——認知度・理解度の向上

【小学生】

小学5年生	まずはヤングケアラーという言葉とその意味を知ってもらうことが大切だと思います。このアンケートで一人でも多くのヤングケアラーの人に支援が届くのかなと思いました。
小学5年生	家庭の中のことは、まわりの人が気づきにくいし、そもそも本人が気づいていない場合もあるから、まずは、本人が気づくために、「ヤングケアラー」という言葉をもっと広めていったらいいと思った。
小学6年生	自分がヤングケアラーだ。と言える環境が必要だと思う。
小学6年生	やっているとは思いますがこのような形だと学校へ通えない深刻なヤングケアラーの人へ届かないのでチラシなどを配ったり、掲示板にヤングケアラーの人についてのことを書いた紙を貼ったりしたほうが届くと思います。

【中学生】

中学2年生	ヤングケアラーの人はまわりの人に相談しない傾向にあると聞いたのでこういったアンケートをやることはいいと思いました。支援を広げていくためにはひとりひとりが理解を深めることが必要だと思った。
中学3年生	ヤングケアラーへの支援を広げていくためには、まず多くの人がヤングケアラーについての理解を深める必要があると思います。このアンケートを実施することによって、私を含め、今までヤングケアラーについてあまり知らなかった人が知る良いきっかけになったのではないかと思います。
中学3年生	ヤングケアラーは自覚がなくて当たり前になっている人もいると思うから、どういうことをやっているのがヤングケアラーなのかもっと詳しく知識を広めていく必要があると思う。

【高校生世代】

高校1年生	支援を広げていくためには、当事者達の思いを知らせることが必要であるから、学校やネット、新聞などでとりあげていくことが必要になると思う。
高校2年生	ヤングケアラーの存在を当事者か、否かにかかわらず高校生にも知ってもらうための機会を増やせると良いと思う
高校3年生	まずその現状を知ってもらうこと、認知が大切なのではないか。学校での講演会を始めそういった方々が身近にいることを知ってもらいそこから支援等へと発展すべきだと感じた。

① (イ) ヤングケアラーへの支援・施策に関すること——相談にかかわる内容

【小学生】

小学6年生	相談の機会を増やすため、学校でも2ヶ月に一回くらいで全員やれば良いと思う
-------	--------------------------------------

【中学生】

中学1年生	変わらなかったら意味がないけれど話を聞いてあげたほうが良いと思う。話を聞くだけでも少しでも気楽になれる人もいるし、状況が変わる場合もあるから。
中学3年生	ヤングケアラーとはいっても色々な種類があるため一括にするのではなくその人たち一人ひとりに合った支援をしていくことが大切だと思います。この市を変えてゆくための第一歩は一人ひとりのはなしを聞くことから。
中学3年生	ヤングケアラーは必然的に一人で行動することが多くなり、精神的にもダメージがあると思うので本人が話したいと思うときに自然に話せる場所が必要だと思った。

【高校生世代】

高校1年生	ワークショップ開催だけだとあまり参加しない高校生も多い。授業内でしっかり伝える方が本人に相談先があるということが伝わると思う。
高校3年生	もっと学校側に話しやすい環境をつくる。ヤングケアラーの子供たちは自分から悩みを話すことが難しいため、そのためには、学校で日頃から子供とのコミュニケーションを大事にしたり、悩んでいることをいつでも相談出来る環境を常に整えておくことが大切だと思う。担任の先生だけでなく養護教諭との連携や、学校全体で寄り添うことが必要だと思う。
高校3年生	カウンセラーや自治体に相談しても結局現状は変わらないと思うと、相談する気も失せてしまう人が多いと思う。相談したら、ただ同情するだけでなく確実にその子の状況を物理的に改善することを示すことで、ヤングケアラーの声がもっと届くようになり、国や自治体への信頼感も変わってくると思う。

① (ウ) ヤングケアラーへの支援・施策に関すること——普及啓発

【小学生】

小学5年生	学校の教科書にヤングケアラーのことについて書いてみんなに知ってもらいたいと思います。
小学5年生	ヤングケアラーのことを知らせる授業が必要。
小学6年生	ヤングケアラーを子供だけではなくまだヤングケアラーのことを知らない人にも伝えたいと思う。
小学6年生	学校や地域でヤングケアラーのことを説明する。

【中学生】

中学1年生	総合など学校の授業で取り扱う
中学2年生	もっと学校でヤングケアラーについての学習の時間を作るといいと思いました
中学3年生	学校に実際にヤングケアラーだった方を呼んで講演をしてもらう

【高校生世代】

高校1年生	テレビや新聞、ネットなどを使って認知度を上げたり、相談出来る場所が書いてある紙を学校で配ったりポストに入れたりする。
高校3年生	図書館や市役所等の公共施設にヤングケアラーに関するスペースを設置してほしいです。
高校3年生	学校の授業でヤングケアラーという立場に置かれている子がいるということを知ってもらいたいこと、またどんな子がヤングケアラーに当てはまるのか詳しく知ってもらいたいような機会を設けるべきだと思う。

① (エ) ヤングケアラーへの支援・施策に関すること——人や制度の支援

【小学生】

小学5年生	ヤングケアラーの人たちは、お金がない可能性もあるので、学校や病院などの費用を減らすことがいいと思う。
小学6年生	ヤングケアラーの団体を作ったり、都や県が支援するのがいいと思う。それと、ヤングケアラーの方たちの憩いの場をつくり、精神的な健康をサポートするのもいいと思う。
小学6年生	ヤングケアラーの人は友達友人と遊ぶ機会が少ないと思うので手伝いをしてくれる人が必要だと思う

【中学生】

中学1年生	ヤングケアラーを支援する団体を作ればいいと思います
中学1年生	買い物に行く手間が省けるように配達してあげる
中学2年生	補助金制度や介護・身の回りの人のお世話を代わりにやってくれる制度などの支援。
中学2年生	ヤングケアラーの人が学校を休めるような制度があったらいいと思う。
中学2年生	ヤングケアラーの人が自分がヤングケアラーだと申請すると、社会的支援などを受けられるようにする。また、その申請を子供だけでできるようにする。
中学3年生	外部から勝手に押し付けることなく本人と話して様々なことを決められる制度が良いと思う

【高校生世代】

高校1年生	当該児童がヤングケアラー状態であることを自治体が公式に証明し、助成金やヘルパーの派遣などを行えるような法整備
高校2年生	悩んでいる人の相談窓口を増やしたり、支援につながるように、大人にも情報を提供してほしい
高校3年生	政府を中心にそれぞれの自治体が教育や福祉、医療、介護あたりの法律などを良くし、ヤングケアラーに対する認知度の向上と根本的な理解と改善が必要ではないかと思う。また、ヤングケアラーになっている人が気軽に支援、相談を受けられるような場所も必要だと思う。

①（オ）ヤングケアラーへの支援・施策に関すること——お金の支援

【小学生】

小学5年生	月5万円の支援
小学5年生	金銭的な援助や府中市の職員の方などが定期的に訪問するなど必要だと思う。
小学6年生	・援助金　・税金の一部負担（金銭的な面の支援が必要だと思います。）
小学6年生	学費をもっと支援した方がいい

【中学生】

中学1年生	・募金活動　・学費免除　・休んでも成績に反映されない。
中学2年生	お金の支援は必要だと思います。ヤングケアラーのひとがいるならば、宿題の量や家でやることの量を減らしたら生活に余裕ができると思います。
中学2年生	子供が短期間で助けを呼べる環境が必要だと思う。高校生でお金がなくバイトをしている人もいると思うから税金を配る。

【高校生世代】

高校1年生	調査と給付金の配布、メンタルケア
高校2年生	高校の学費の支援。
高校2年生	ヘルパーなどを呼ぶための料金の援助は必要だと思う
高校3年生	訪問介護の充実、介護者への給付金
高校3年生	就学支援、ケアに対する実質的支援、金銭的援助、

①（カ）ヤングケアラーへの支援・施策に関すること——施設・物品などの支援

【小学生】

小学5年生	ヤングケアラーの人が集まる憩いの場があるといいと思う
小学6年生	ヤングケアラーの人たちは家族の人たちのことで精一杯だと思うから、その人達だけの居場所が必要だと思います。

【中学生】

中学1年生	子供だけが使える引き換え券みたいなのを配る
中学2年生	ヤングケアラーの心を癒せる場所を増やすことが必要
中学3年生	子供食堂を増やす

【高校生世代】

高校2年生	家庭環境によっては、自分で好きな洋服やメイク道具などを買いに行けない人もいると思う。生活に最低限必要なものが揃っていたとしても、モチベーションを上げるために好きな物を身につけられるようにできるならば…と思うことはある。
高校2年生	ヤングケアラーとして学校に思うように行けなかった人達への夜間学校を開くことでの学習支援をすることが必要だと思う。

①（キ）ヤングケアラーへの支援・施策に関すること——気づき・声掛け

【小学生】

小学5年生	ヤングケアラーに気づいてあげる事が大切。みんなが気づこうとするのも大事だと思う
小学6年生	普段相談できないヤングケアラーにもとてもいいと思いました。 自分からは言えない人もいるので相談できる人から（先生、カウンセラーなど）声をかけてあげるといいと思いました。
小学6年生	悩みを相談する窓口や宣伝のためにポスターを作り気軽に声をかけられるようにする。

【中学生】

中学1年生	ヤングケアラーの人が一人で抱え込むことがないように、ヤングケアラーの人もお世話されてる側の人もケアする。人が人をよく見るようになったら、解決していく。
中学1年生	ヤングケアラーの取り組みはその子自身の意志を尊重してあげると良いと思った。
中学2年生	ヤングケアラーの子は、自覚がなかったりするのでまわりの大人が気づくべきだと思う。
中学3年生	学校でヤングケアラーの人がいるのか先生たちが把握してサポートしてあげれば良いと思う

【高校生世代】

高校1年生	家庭一つ一つで状況は違うので、親などをどうにかしないと直接的な解決は出来ないと思うので、ヤングケアラーの子達のメンタルケアなどに徹底していくのがいいと思う
高校1年生	学校の授業などで話してくれることがあり、知れる機会があったのでそれは続けた方がいいと思います。ヤングケアラーは人に自分のことを話せない人もいるだろうから、同世代の私たちはあんまり詮索したりせずに、一緒にいてあげることが大切だと思います。

① (ク) ヤングケアラーへの支援・施策に関すること——その他

【小学生】

小学5年生	このアンケートを府中市の人にもやってもらう
小学5年生	こういうアンケートなども良いですが、ほかにももっと、イベントを増やしていくことが良いと思います。
小学5年生	こういったアンケートを取るのは、とてもいいと思います。このような人向けのホームページを作ったらいいと思う。
小学5年生	ヤングケアラーの人が、休日を取れるようにするといいと思う。
小学6年生	ヤングケアラーの人がどこでどんな支援を受けられるのかを学校の手紙などで配ればいいと思う。

【中学生】

中学1年生	普段ヤングケアラーの方は、自分の時間が足りていないと思うからじぶんだけの時間も必要だと思う。
中学1年生	このアンケートのあとに友達とこの会話をする。
中学2年生	ヤングケアラーのグループ作る。
中学3年生	ヤングケアラーがヤングケアラーになっている原因を探る。
中学3年生	義務教育でも通信制、単位制を取り入れる。
中学3年生	シングルマザーに対しての支援をもっとしてほしい

【高校生世代】

高校1年生	ヤングケアラーの駆け込み寺みたいなところや支援所を駅やコンビニ、スーパーなどに設置する
高校1年生	ヤングケアラーに依って学業などに影響が出るようであれば、実情が間違っていると思うので、金銭とかではなく、ケースごとに分けてそれぞれに適切な支援をすべきだとは思う。
高校2年生	府中市立の中学校生徒会役員達で行われる、リーダー研修会の議題にしてみるのはいかがでしょうか？ 有益な意見が多く集まると思います。また、生徒のヤングケアラーへの関心も高まるかと思っています。
高校2年生	ヤングケアラーが養っている障がいを持つ人たちや、高齢者の過ごしやすい環境づくり、バリアフリー化を増進していくことが支援に繋がると思う。
高校3年生	ヤングケアラーに限らず、若者が気軽に集まれる場がほしいです。
高校3年生	難しいことだとは理解してますが、、、学校を休む・遅刻＝罪みたいな風潮が時々感じられるからそう感じさせないようにするのが大切だと思います！

②感想・意見・要望

【小学生】

小学5年生	いじめにあつて学校に復帰した子に、悩みを吐き出して相談できるようなアプリを作つて欲しいです。
小学6年生	学校でいつでも気楽に相談できる場所がほしいです。行きたくないなとか言いづらい環境にならないようにしてほしいです。
小学6年生	ヤングケアラーをもっと調べてみたいと思った。
小学6年生	子供が老人や幼児のお世わをするのは、とても大変だし、子供がやるべきことでは、ないと思うけど、老人や幼児のお世話をする人がいないと、こまってしまうから、お世話する人が必要だが、いないから子供がやってるのは、どうなんだろうと思った。

【中学生】

中学3年生	ヤングケアラーへの支援はどのようなものか気になった。もっとヤングケアラーの理解を深めていきたいと思った。
中学3年生	あまりヤングケアラーをみたことがないから、身近なことに思えなかった

【高校生世代】

高校3年生	お金を支給するだけでは解決しない問題に対して府中市がどのように対応していくかとても気になっています。
高校2年生	親の収入で生活保護金とか決まるならその影でケアしてる子供には届かない時もあると思います。共働きで子供に任せてたり、何がどこまでなら助けてくれるのかを周知しないとやらされてる側は知る事も出来ない。その余裕すらないと思います。
高校2年生	ヤングケアラーについて高校の授業で初めて知ったため、中学やもしくは小学校の授業など早い段階で知ることが出来たら良かったなと思った。

③アンケートの感想

【小学生】

小学5年生	動画を見て、このアンケートが10～15分ほどかかると言っていたのできつと難しいし、問題数が多いんだなと思ったけれど、簡単に答えられるしとても大事なことが質問されていたので、気軽に回答することができました。
小学6年生	このアンケートはわかりやすく、あまり責められないアンケートだと僕は思いました。これからもぜひこのようなアンケートをやっていってください。
小学6年生	みんなのヤングケアラーへの関心が高まれば、取り組みなども増えると思う。だから、このようなアンケートも大事だと思う。
小学6年生	私にはヤングケアラーは当てはまらないけど、このようにアンケートを取ってくださったおかげで、相談してもいいんだ（相談できる人がいる）と思えました。もしなにか困ったことがあったら、学校・府中市の人に相談しようと思います。

【中学生】

中学2年生	ヤングケアラーという言葉は聞いたことがあったが、どういう意味なのか知らなかったからこのアンケートをきっかけに意味を知ることができて良かった。
中学2年生	このアンケートでヤングケアラーがいることがわかってそこをどう対策するのか明記されてないのが疑問だった
中学3年生	まず学校で聞いているのが愚かって感じします。ヤングケアラーだから学校に来れないことが多いっていう仮定をするんだったら学校じゃなくて普通に家に出向くとかすれば良くないですか？

【高校生世代】

高校1年生	ヤングケアラーの中ではスマホを持っていない人もいると思うので、スマホだけの調査だとすべてはわからないんじゃないかなと思いました。ヤングケアラーが少しでも減って自分を尊重できる市にしてほしいです。
高校2年生	アンケートが長すぎる。もう少し端的に短くするべきであると思った。
高校2年生	このアンケートは高校生の声を直接届けられていいと思う。
高校2年生	こういうアンケートをすることによって、悩みを打ち明けることに繋がるかもしれないからとてもいいアンケートだと思う。

④お世話をしている子どもの声

【小学生】

小学5年生	これから弟がもっと笑顔になるようにヤングケアラーをしていきたい
小学5年生	正直お世話とかよくわかんない
小学5年生	府中市はとてもゆたかですごく住みやすいとおもいます だけど、お悩み相談の場所がすくないとおもいます もう少し悩みを聞いてくれる場所があったらヤングケアラーもなくなると思います

【中学生】

中学1年生	ヤングケアラー＝大変で辛くて支援が必要などの「少しだめなもの」というイメージがあるのが嫌だなと思う。私はいやいややっているわけでもないし、親が大変で自分になにか手伝えることはないかと思ってしていることだから可愛そうとか親がなんでやらないんだとか思ってほしくない。誰も悪くないし、この状況をどうにかしようと頑張っている人もいるから、ヤングケアラーを知ったつもりなだけでいいのは良くないと思う。
中学3年生	SNSは親に内容をよく監視されるから怒られるかも。だから相談しづらい
中学3年生	学校の先生たちに相談したくても、先生方が忙しくてとても話しかけられる状況ではないから相談できていない。けどホットライン?のようなものを使うほどではないと思っている。

【高校生世代】

高校2年生	金と時間と余裕をくれ
高校3年生	早期のうちに重度のヤングケアラーを発見するような制度があるといいと思う
高校1年生	ヤングケアラーの精神的苦痛を理解しようとする。物価を下げて欲しい。高校にも給食を導入して欲しい。

⑤相談・悩み・強い意見

【小学生】

小学5年生	他の話ですが、僕は性別で悩んでいるから、アンケートのときに性別を聞かれるのが少し嫌です。その欄を、なくしてほしいです。
小学6年生	子供の悩みを、子供みんなで話す会がほしい。大人にとって話づらいんです。話そうって思っても、勇気が出ないんです。でも、でも、同級生とかには話せるんです。だからそういう取り組みがほしいなと思いました。
小学6年生	友達関係があんまり良くなって困ってて、お母さんに相談しても自分的には解決できなくて困ってます。先生には相談しづらくどうにも解決ができない。その子は友達の事をきらってはぶいたり、急に仲良くしてきたりする。だから、学校に行きたくないって思うときがあります。
小学6年生	いま、友達が不登校気味。学校に来てほしいが、無理やりにはこさせたくない。どう接すればいいのかが悩みです。

【中学生】

中学1年生	最近ストレスを感じています。それに寄り添うことができるものがほしい。話しやすい人で紙に書くとか電話とか記録に残って見られるのが怖い。
中学2年生	学校での1人1人に対する教師の対応にためらいを感じないような環境づくりがなによりも大切だと思う。なぜなら、僕が小3のときいじめられており誰かに相談することに恐怖を感じていたためだ。
中学3年生	学校の中では、生徒や教師も悩みを抱えていると思う。学校にはスクールカウンセラーなどの相談できる場所があるが、相談をする場合は先生に一度言わないといけないので、自由に相談できるようにしてほしいです。

【高校生世代】

高校2年生	当事者の子供が助けてほしいと声を上げる事は無理です。そんな家庭の子供は、助けてもらう事に慣れていません。他人を信頼していないのです。まわりの大人が、お節介をして下さい。無理やり助けて下さい。あなたはもう何も心配しなくていい、明日から勉強に集中していいよ、と言ってあげて下さい。虐待を見て見ぬふりをしないで下さい。
高校2年生	家庭科の教科書には「困ったら一人で抱え込まずに相談してね」と書いてあったのですが、本当に対応できているのか不安です。私はヤングケアラーではありませんが、友達にいました。その子が言うには、友達に話しても大人に相談してもやっぱり自分の負担が軽くなるわけではないようです…。相談して気持ちが軽くなったとしても、やっぱり解決まで持っていけないとその子の精神や将来に良くないと思います。対応するのが大変難しい問題だとは思いますが、ヤングケアラーが環境のせいで将来を諦めるようなことが無くなって欲しいです。
高校3年生	いなくなりたいと思ったときに、LINEの相談を利用したので踏みとどまって頑張れました。感謝しています。

⑥市や学校への設備や制度への要望

【小学生】

小学5年生	サッカーが出来る公園を、増やしてほしいです。
小学6年生	スポーツ施設をつくってほしい
小学6年生	府中市は古墳があったり歴史の長い大國魂神社があったりするから、そういう歴史のことをもっと市外に広めていくべきだと思う。
小学6年生	学校のトイレをきれいにしてほしい。

【中学生】

中学1年生	午後の学校の開放があるといいと思う
中学2年生	府中市内にもうちょっと遊べる場所を作って欲しい。
中学3年生	ル・シーニュのプラッツにあるような自習スペースを増やしてほしいなと思います。
中学3年生	中学生や高校生が飽きなく楽しく過ごせる施設がほしい
中学3年生	友達と無料で自習ができる場所だったり、中学生や高校生が遊べるような場所をつくってほしいです。

【高校生世代】

高校1年生	インターネットに接続できるフリー Wi-Fiを増やしてほしい!
高校2年生	個室で勉強ができる場所が欲しい。また、個室でなくてもいいから静かに勉強できる図書館のような場所も増えて欲しい
高校2年生	本屋を増やしてください。

5. まとめ

(1) 家族のお世話をしている児童・生徒の把握

家族のお世話をしていると回答した児童・生徒は、小学生 488 人 (15.4%)、中学生 301 人 (7.6%)、高校生世代 20 人 (2.8%) であった。全国調査 (令和 2 年度、3 年度) と比較すると小中学生では割合が高く、高校生世代では低かった。近隣の他自治体においても同様の傾向が見られている。

回答者の学年層が低いほど、家族のお世話をしている割合が高い背景に、家族の「お世話」とは「お手伝い」の範疇に入るものが多い可能性が考えられる。調査票・フォームの中で「お世話＝大人がするような家事である」等の説明を入れたが、比較的軽微なお手伝いも含めてお世話していると回答している子どもが一定数いるため、割合が高くなっていることが想定される。

上記を踏まえ、お世話の頻度や時間を考慮し分析すると、ヤングケアラーと思われる子どもは、小学 5 年生から高校生世代の児童・生徒の 5.4% (約 426 人) と推定される。そのうち、世話をしているため、やりたいことができないことが 1 つ以上あると回答した子どもは、1.7% (約 131 人) だった。

ヤングケアラーと思われる子どもの人数推計等の詳細については、第 5 章 総合考察に記載をした。

(2) 学年層ごとの家族のお世話の状況

小学生 (488 人) がお世話している相手は、「きょうだい」が 48.4%、「母親」が 34.8%、「父親」が 25.4% の順であった。また、お世話の理由は「幼い」(35.2%)、「わからない」(29.5%)、3 番目以降は「高齢」「日本語が苦手」「身体障がい」「要介護」「精神疾患」「知的障がい」と続き、多様な理由が選択されている。

お世話の内容としては、「家事 (食事の準備や掃除、洗濯)」(43.9%)、「きょうだいの世話や保育所等への送りむかえなど」(28.3%)、「一人では外出が難しい家族のつきそい」(10.9%)、「心配で目を離せない家族の見守り、声かけ」(8.4%) の順である。

きょうだいの「遊び」や「勉強を見てあげる」などの回答があり、それを「楽しい」と捉えているケースがあったが、遊びや勉強を見てあげながら、「見守り」や「つきそい」などの役割を担っていると考えられる。また、病気や障がいのあるきょうだいへの対応や、親の状況を気遣う、家事をしているというケースもあった。「身体的介護」や「薬の管理」などは少数ではあったが、小学生には困難で負担が大きい内容も含まれていた。

次に、中学生 (301 人) がお世話している相手は、「きょうだい」が 42.9%、「母親」が 24.3% であり、お世話の理由は、「幼い」(37.5%)、「わからない」(15.9%)、3 番目以降は「高齢」「要介護」「身体障がい」「日本語が苦手」「精神疾患」「知的障がい」と続く。また、お世話している家族の状況を「わからない」と回答したのは 15.9% で、小学生 (約 3 割) よりも低く、中学生になると家族の状況を把握することが可能となってくると考えられる。

お世話の内容は、「家事 (食事の準備や掃除、洗濯)」(43.2%)、「きょうだいの世話や保育所等への送りむかえなど」(26.2%)、「見守り、声かけ」(12.6%)、「一人では外出が難しい家族のつきそい」(10.3%) の順である。

この中には、小学生と同様に幼いきょうだいの世話があり、中には病気や障がいのあるきょうだいとの関わり (見守り、一緒に遊ぶ)、また親自身の病気や障がい、多忙さをフォローしてお世話等を行っていることも含まれている。

最後に、高校生世代 (20 人) がお世話している相手は、「きょうだい」が 35.0%、「母親」「父親」「祖母」が同率で 25.0% であった。また、お世話の理由は、「幼い」(55.0%)、「わからない」(15.9%)、3 番目以降は「認知症」「精神疾患」のあと「要介護」「身体障がい」「知的障がい」が同率で続く。また「依存症」も少数だが選択されている。

お世話の内容は、「家事 (食事の準備や掃除、洗濯)」が 60.0%、「きょうだいの世話や保育所等への送りむかえなど」が 25.0%、「見守り、声かけ」「一人では外出が難しい家族のつきそい」が 20.0% (同

率3位)、「身体的な介護」が15.0%、「薬の管理」「通院のつきそい」が5.0%(同率6位)であった。小中学生と異なり、「家事」の割合が高く、「きょうだいのお世話」が低い状況にあった。また介護・医療に関するお世話の種類の回答比率が小中学生よりも高くなっている。

お世話をする頻度と時間は、小中学生に比べどちらも増加している。時間に関しては「3時間未満」の割合が小中学生に比べ減少する一方、「3～7時間」および「7時間以上」が大幅に増加している。

(3) 家族のお世話をする事による影響

年齢が上がるにつれてお世話をしていることによる生活等への影響が表面化する傾向があった。小中学生は、影響や負担感を自覚している子どもの割合は低い傾向だが、一方で「自分の時間が取れない」など生活時間への制限のほか、学校へ行けない、遅刻や早退をしてしまう、進路や将来のことを考えられないと感じている子どもが少数だが存在する状況であった。

高校生世代は、影響が「特にない」は35.0%で、小中学生よりも20～25ポイント以上減少している。また、「自分の時間が取れない」「友人と遊ぶことができない」「宿題をする時間や勉強する時間が取れない」「睡眠が十分に取れない」については小中学生を大幅に上回っており、お世話をしていることによる様々な影響を自覚している割合が高くなっている。

お世話で感じる大変さについては、小中学生では約10人に1人、高校生世代では約3人に1人が実感している。特に「精神的に大変」と感じている割合は、小中学生約1割、高校生は4割であった。

(4) 相談相手の状況と支援ニーズ

お世話について「相談したことがない」という小中学生は約5割、高校生世代は約6割となっている。「相談したことがない」と回答した子どもに、お世話の悩みを身近で聞いてくれる人はいるかたずねたところ、「いる」と回答した小学生は約7割、中学生は約6割、高校生世代は約8割であった。また、自身以外に家族のお世話をしている人が「いる」と回答した対象者は小中学生・高校生世代すべてで60%を超えており、その属性は母親、父親、きょうだいが多い状況であった。

またお世話の悩みを相談しない理由について、「誰かに相談するほどの悩みではないから」とする回答が約7割あったが、「相談しても状況が変わると思わない」という回答も一定数あり、学年層が上がるごとに割合は高くなっている。

また、お世話をしている子どものうち、周囲の大人にしてもらいたいことが具体的にあると回答した割合は、小学生は約2割、中学生は約4割、高校生世代は約5割であった。求める支援について小学生は「自分の今の状況について話を聞いてほしい」「自由に使える時間がほしい」「学校の勉強や受験勉強など学習のサポートをしてほしい」の順に多く、中学生は「学校の勉強や受験勉強など学習のサポートをしてほしい」が最も多く、また、進路・進学相談、経済的支援についての回答が増える。高校生世代では進路・進学相談や経済的な支援に加え、ケアの代替など手段的な支援を望む回答があった。

(5) ヤングケアラーの自己認識と認知度

家族のお世話をしていると認識している子どもに比べ、自身がヤングケアラーであると認識している子どもの割合は、どの学年においても低かった。また、「お世話をしている」と回答した割合とヤングケアラーにあてはまると回答した割合では、学年が低いほどその差は大きかった。

ヤングケアラーの認知度については、学年層が上がるほどヤングケアラーという言葉とその内容を認知している。認知経路についてはどの学年層においてもテレビ等のマスメディアが最多で回答されているが、それ以外にもインターネット等様々な場所や媒体が回答されている。

また認知経路で「その他」を選択した回答(自由記述)では、子ども自身の家族からヤングケアラーについて直接聞いた、教えてもらったという回答や塾の授業や教材、中学受験の教材で知ったという回答が一定数あった。